

調査結果

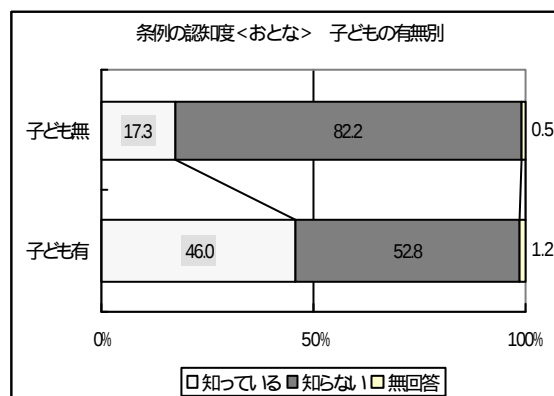
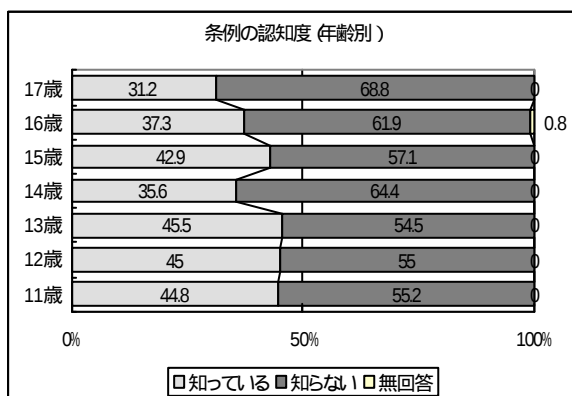
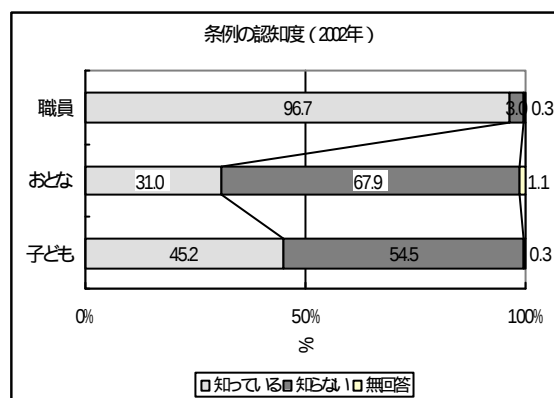
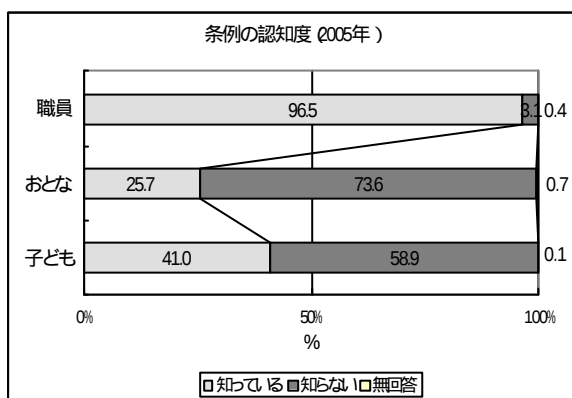
1 川崎市子どもの権利条例

(1) 子どもの権利条例の認知度

「知っている」と回答した割合は、子どもが 41.0%、おとなが 25.7%、職員が 96.5%であった。職員の条例認知度は高いが、子ども・おとなでは半数に満たなかった。子どもを年齢別に見ると、14 歳が 35.6%、16 歳が 37.3%、17 歳が 31.2%で、年齢が高くなるにしたがい、数値は低くなっている。おとなを 18 歳未満の子どもの有無ごとに見ると、子どもがいるおとなのうち条例を知っている割合は 46.0%であるのに対し、子どもがいないおとなのうち条例を知っている割合は 17.3%であった。

前回調査（2002 年 3 月）と比較してみると、子ども・おとなともにわずかながら減少している。

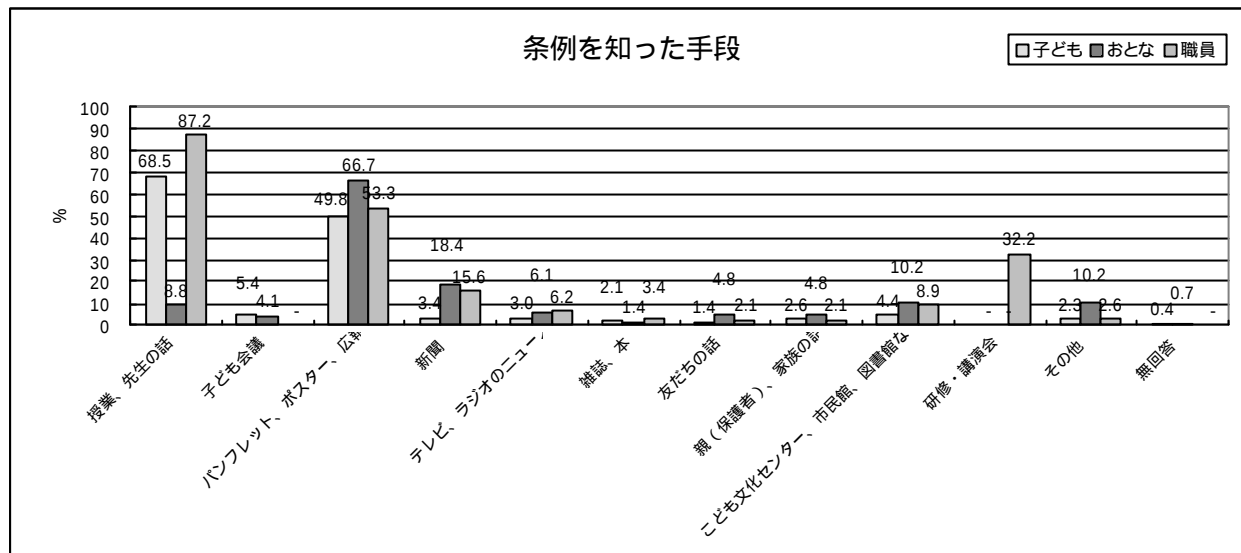
子ども・おとな・職員【問 1】



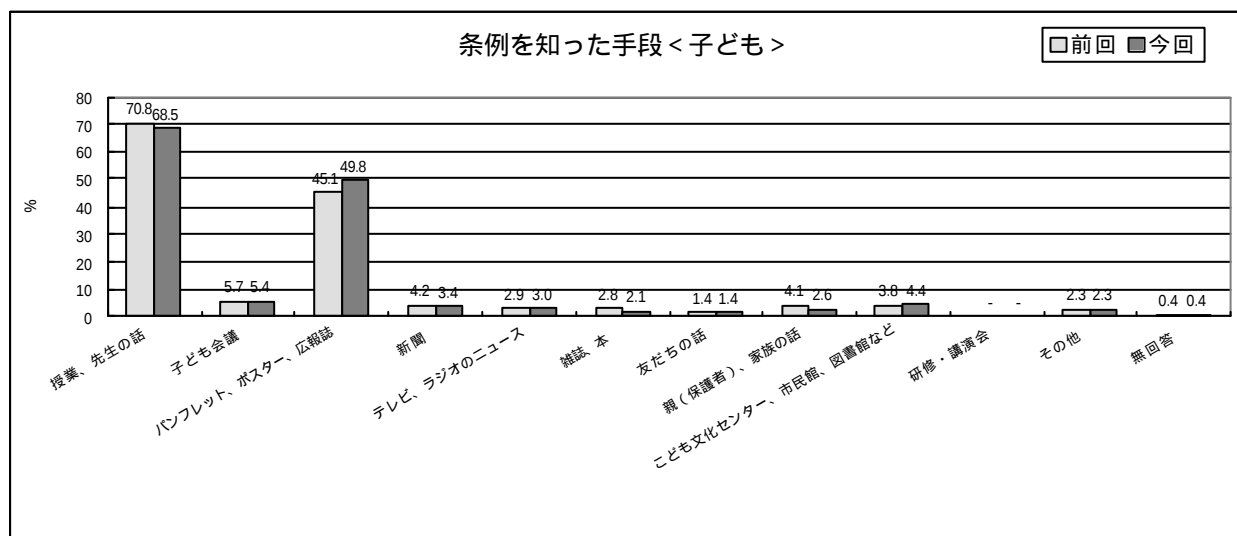
子どもの権利条例を知った手段

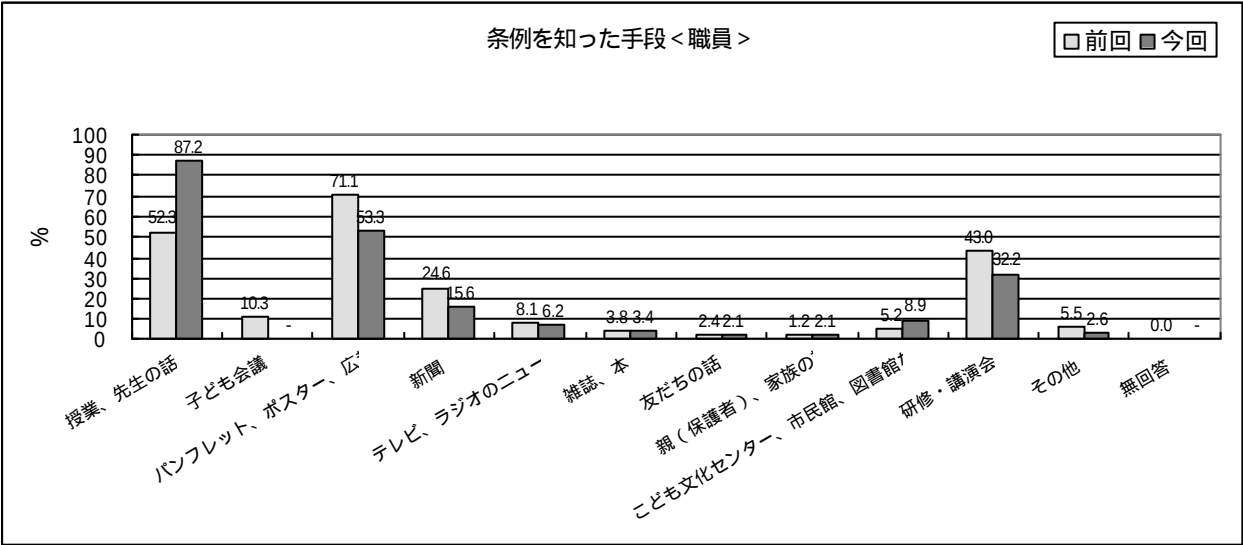
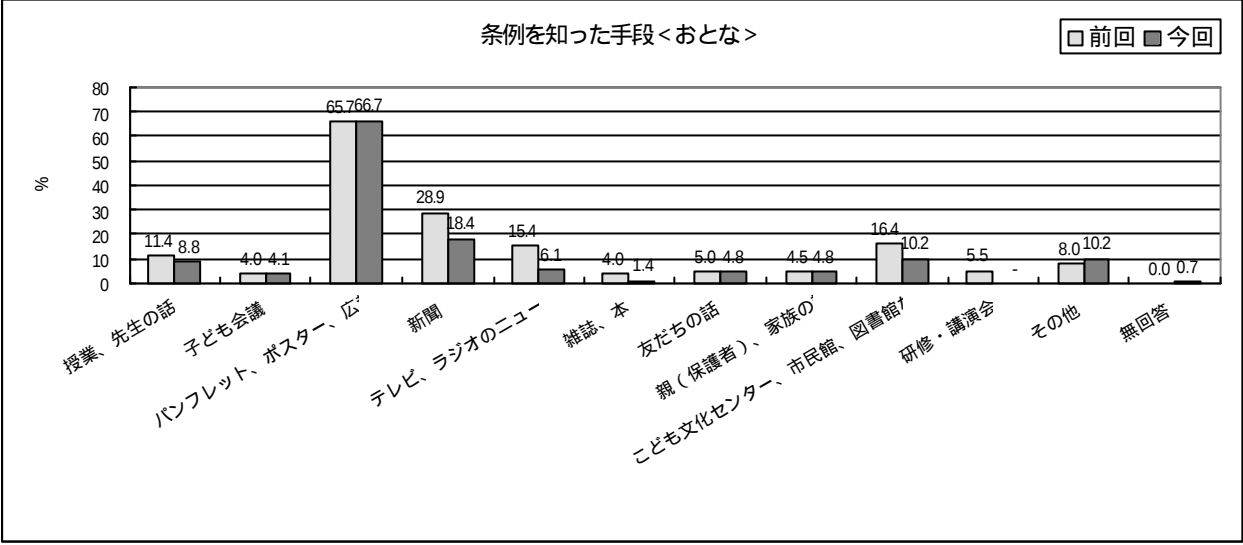
子どもの権利条例を知っていると回答した人を対象に、子どもの権利条例を知った手段について尋ねたところ、子ども・職員で最も多い回答が、「授業、先生の話」（子ども—68.5%、職員—87.2%）、おとなで最も多い回答が「パンフレット、ポスター、広報紙」（66.7%）であった。職員の場合、「研修・講演会」とする回答も比較的多い（32.2%）。

子ども・おとな・職員【問1 - 1】（複数回答）



また、前回調査と比較してみると、子どもでは「パンフレット、ポスター、広報紙」が 4.7 ポイント上がった。おとなでは、「新聞」で 10.5 ポイント、「テレビ、ラジオのニュース」で 9.3 ポイント、「こども文化センター、市民館、図書館など」で 6.2 ポイントそれぞれ下がった。職員では、「授業、先生の話」が 34.9 ポイントと大幅に上がった。逆に「パンフレット、ポスター、広報紙」が 17.8 ポイント、「新聞」が 9 ポイント、「研修・講演会」が 10.8 ポイント下がった。「こども文化センター、市民館、図書館など」が 3.7 ポイントと小幅ではあるが上がっている。

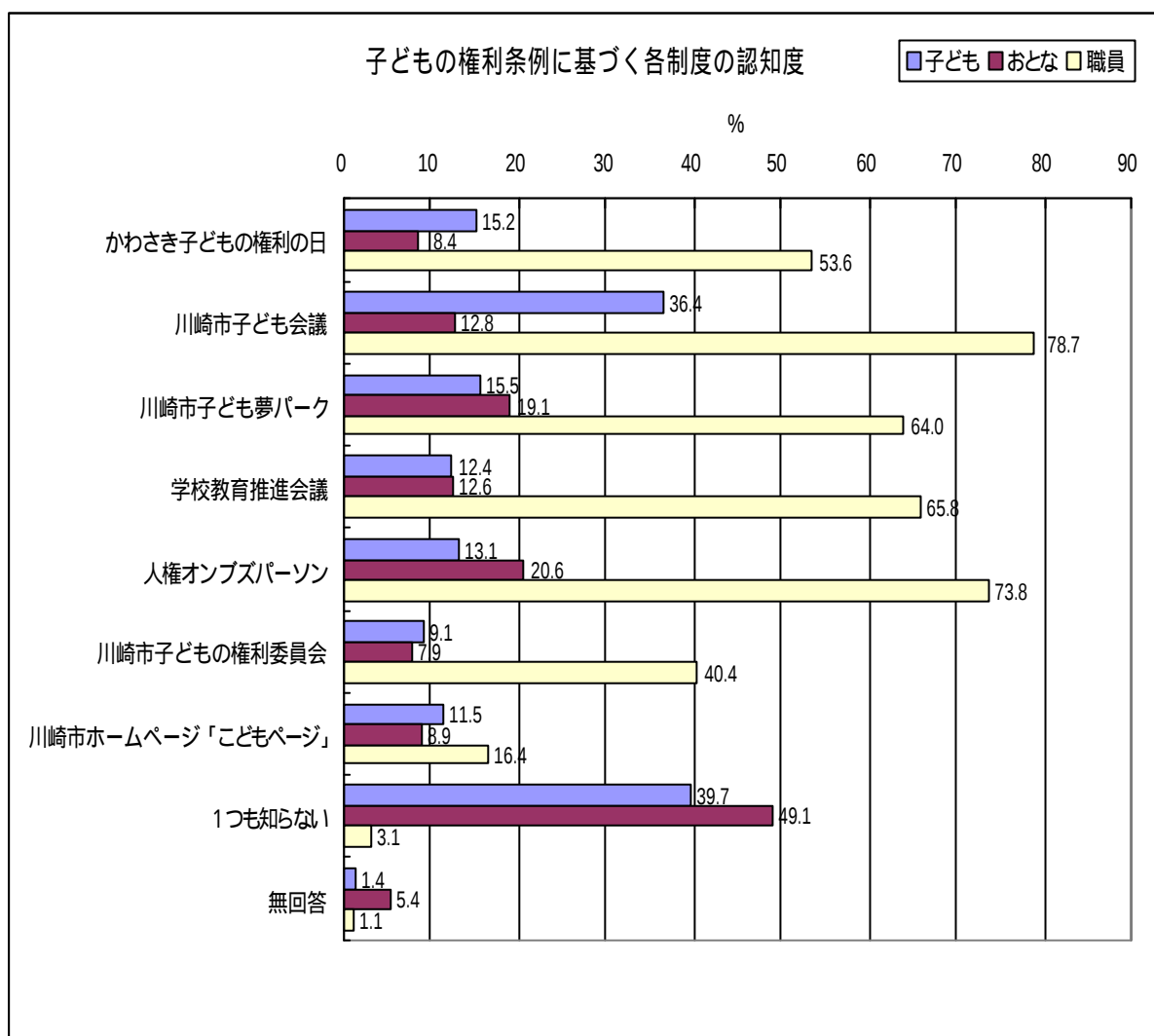




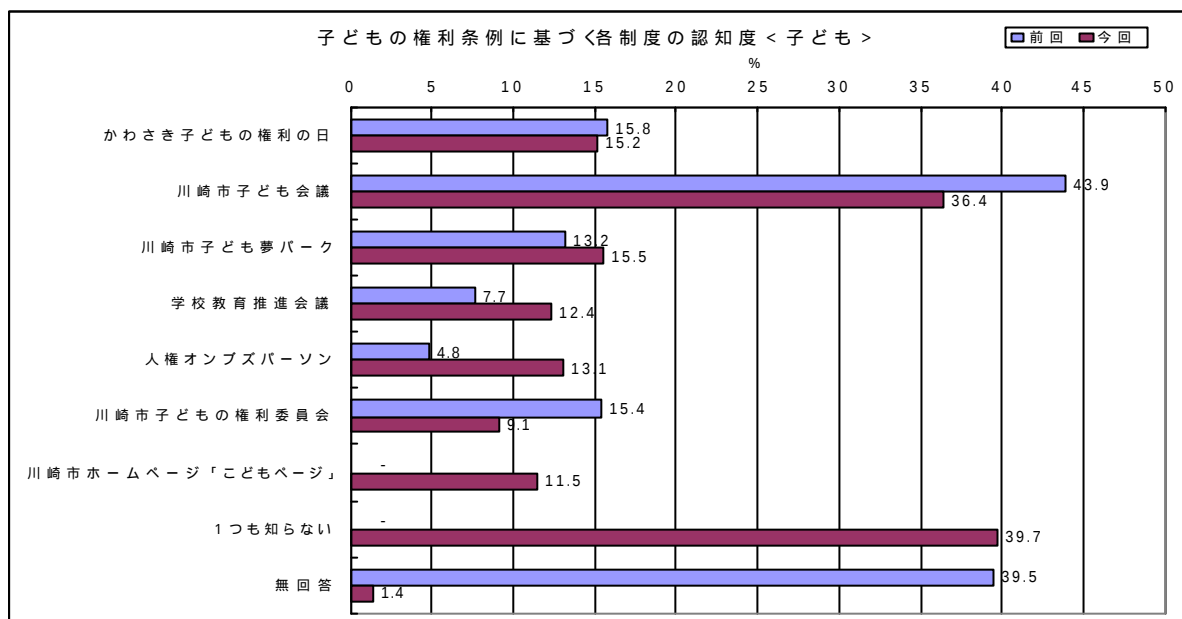
(2) 子どもの権利条例に基づいた各制度の認知度

子ども・おとなともに、「1つも知らない」とする回答が最も多かった。比較的認知度の高い制度としては、子どもでは「川崎市子ども会議」(36.4%) おとなでは「人権オンブズパーソン」(20.6%)「川崎市子ども夢パーク」(12.8%)「学校教育推進会議」(12.6%)があった。職員は、子ども・おとなと比較して総じてどの制度についても認知度が高く、「川崎市子ども会議」(78.7%)「人権オンブズパーソン」(73.8%)「学校教育推進会議」(65.8%)「川崎市子ども夢パーク」(64.0%)といった結果であった。

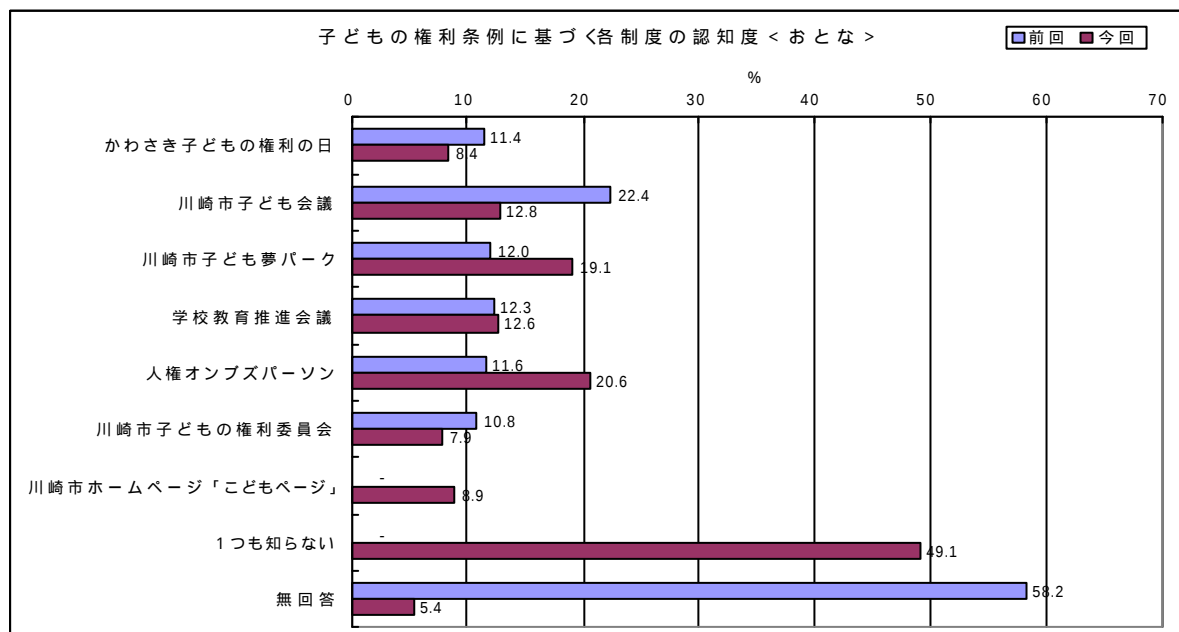
(子ども・おとな・職員【問2】)



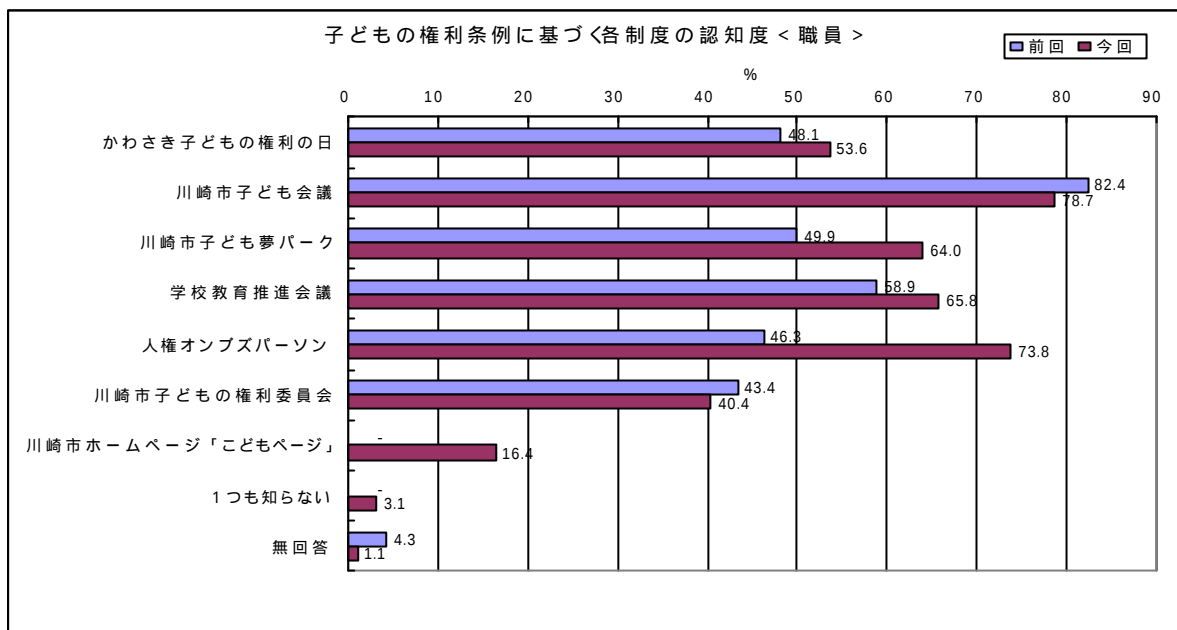
前回調査と比較してみると、子どもでは、「川崎市子ども会議」が7.5ポイント、「川崎市子どもの権利委員会」が6.3ポイント下がったが、逆に「人権オンブズパーソン」が8.3ポイント、「学校教育推進会議」が4.7ポイント上がった。おとなでは、「川崎市子ども会議」が9.6ポイント下がったが、「川崎市子ども夢パーク」が7.1ポイント、「人権オンブズパーソン」が9ポイント上がった。職員では、「人権オンブズパーソン」が27.5ポイント、「川崎市子ども夢パーク」が14.1ポイント、「学校教育推進会議」が6.9ポイント上がった。わずかに下がったのが「川崎市子ども会議」(3.7ポイント減)「川崎市子どもの権利委員会」(3.0ポイント減)であった。



注) 選択肢「川崎市ホームページ」「1つも知らない」は、前回調査では設けていない。



注) 選択肢「川崎市ホームページ」「1つも知らない」は、前回調査では設けていない。



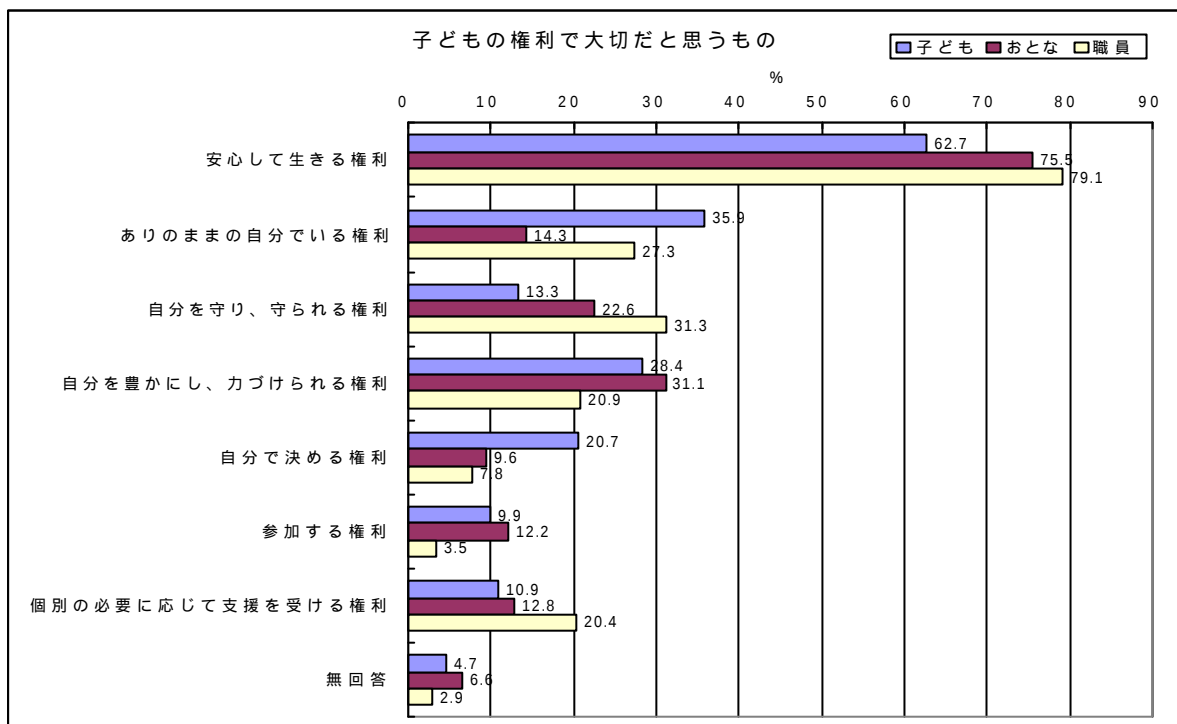
注) 選択肢「川崎市ホームページ」「1 つも知らない」は、前回調査では設けていない。

(3) 子どもの権利条例に規定されている子どもの権利で大切だと思うもの

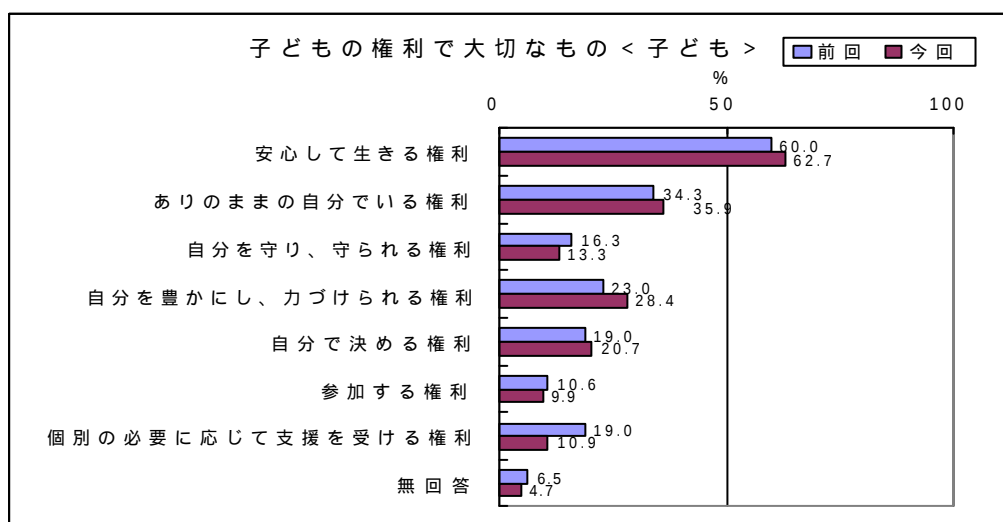
子どもの権利で大切だと思うもの（子ども）、子どもにとって大切だと思う子どもの権利（おとな・職員）について尋ねた。子ども・おとな・職員ともに最も多い回答は「安心して生きる権利」（子ども—62.7%、おとな—75.5%、職員—79.1%）であった。

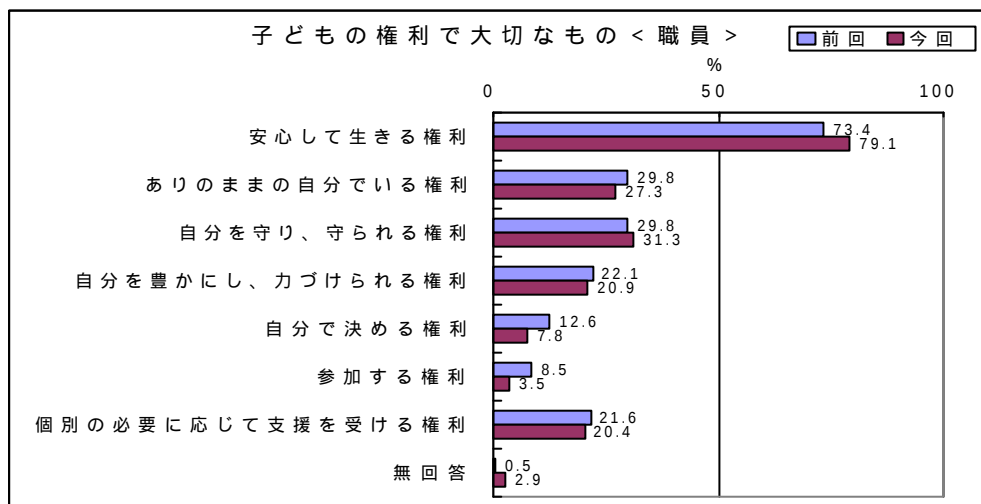
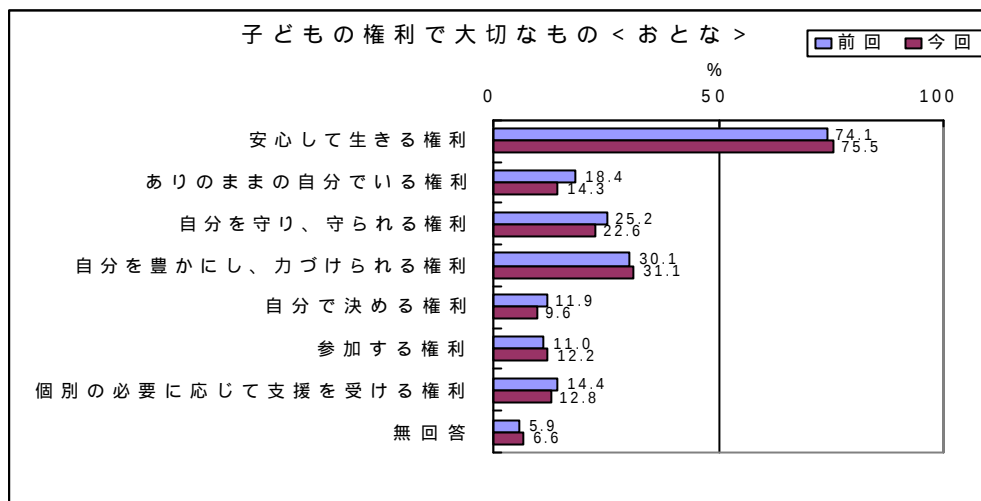
子どもの回答が多い権利で、おとな・職員の回答が少ないものとして「ありのままの自分での権利」（子ども—35.9%、おとな—14.3%、職員—27.3%）「自分で決める権利」（子ども—20.7%、おとな—9.6%、職員—7.8%）があげられる。その他、職員の回答が多く、子どもやおとなの回答が比較的少ないものとして「自分を守り、守られる権利」（子ども—13.3%、おとな—22.6%、職員—31.3%）があった。

（子ども・おとな・職員【問3】）



前回調査と比較して、回答する割合に変化が見られるものとしては、職員の「自分で決める権利」（前回—12.6%、今回—7.8%）「参加する権利」（前回—8.5%、今回—3.5%）があげられる。





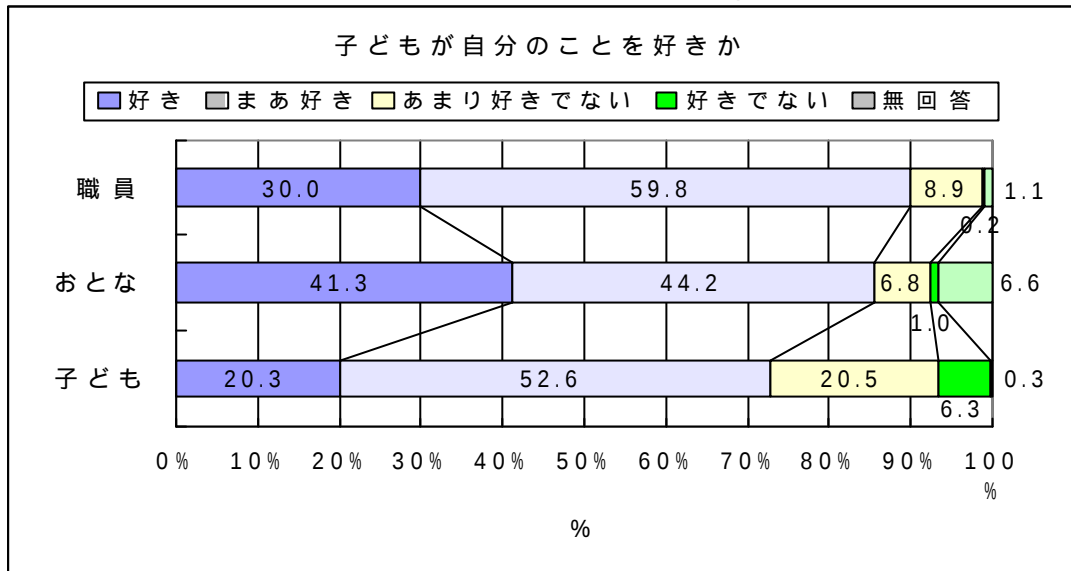
2 意識・生活実態

(1) 自己肯定感

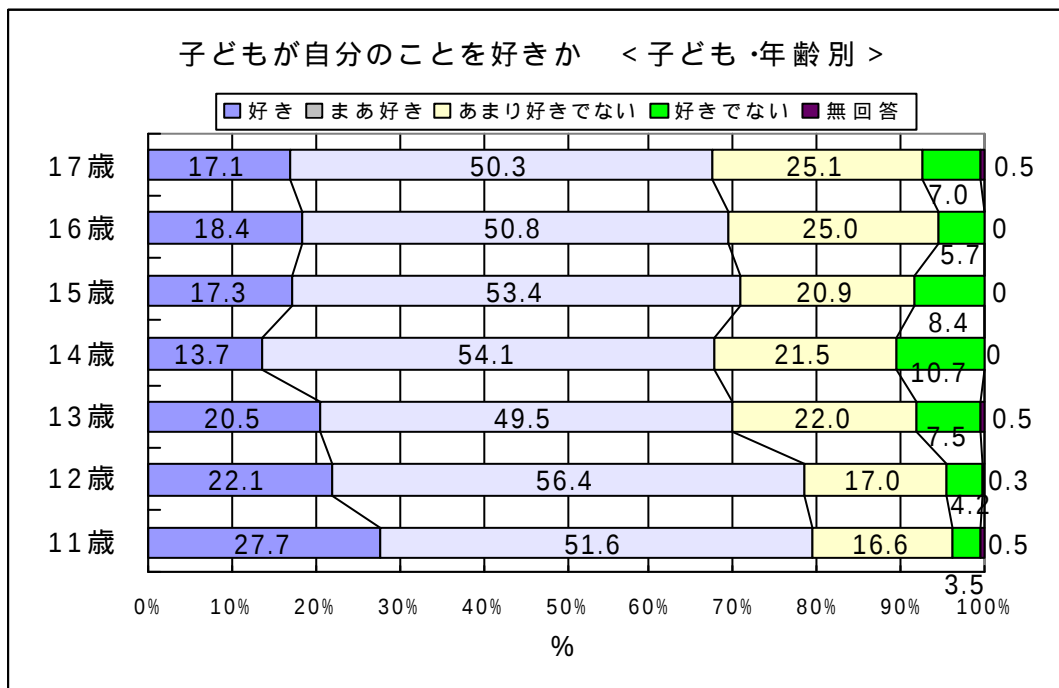
ア 自分のことが好きか

「好き」「まあ好き」と回答する子どもは合わせて 72.9%であった。それに比べておとなは、子どもが自己肯定感を持っていると思うと回答している割合が 85.5%、職員では 89.8%で、子どもの実際の自己肯定感をもっている割合よりも 15 ポイント前後高い結果となった。

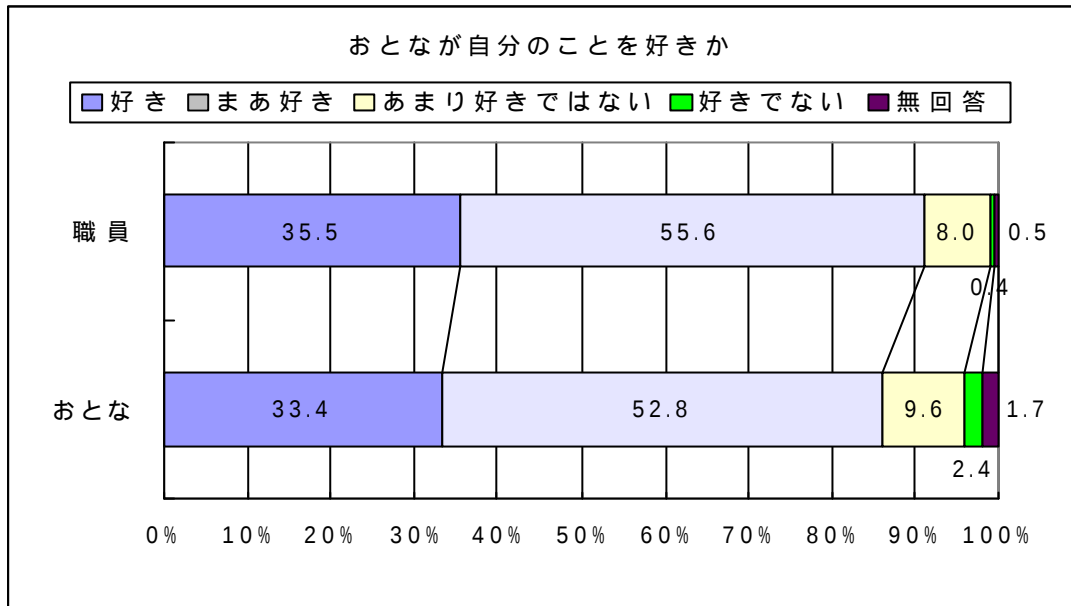
(子ども・おとな・職員【問4】)



また、子どもを年齢別に見ると、11歳では 79.3%の子どもが自己肯定感を持っているが、年齢がすすむにつれ、少しずつ下がり、17歳で 67.4%という結果であった。



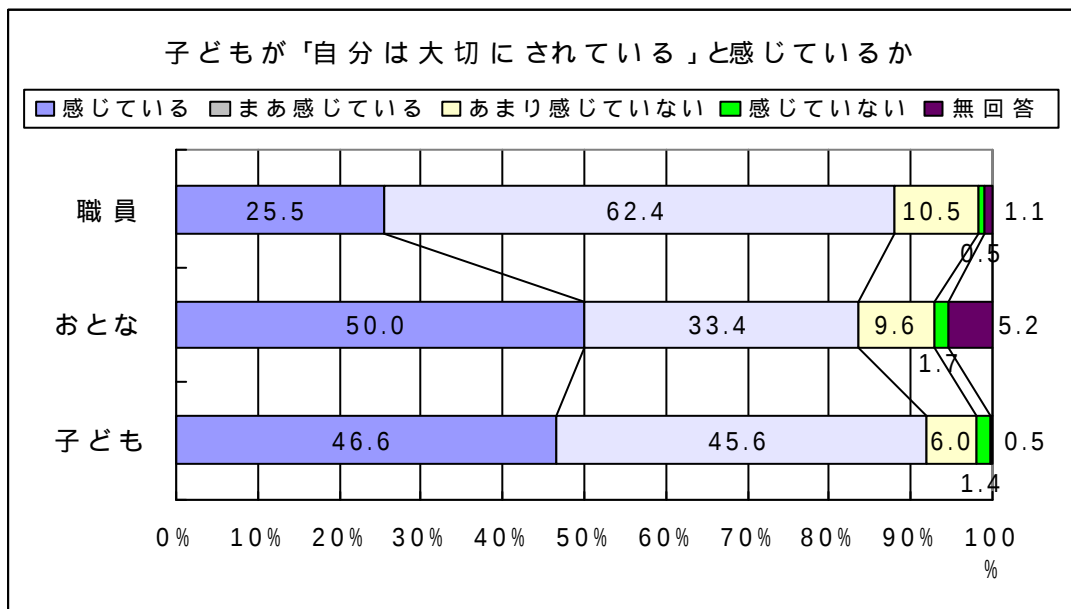
なお、おとな自身が自己肯定感を持っている割合は、おとなで 86.2%、職員で 91.1%と高い結果であった。



イ 他者から自分が尊重されていると感じるか

子どもに対して「『自分は大切にされている』と感じると思うか」、おとな・職員に対して「子どもは『自分は大切にされている』と感じていると思うか」を尋ねた。子どもは合わせて 92.2%が「感じている」「まあ感じている」と回答している。おとな・職員についても、子どもが自分を大切にされていると感じていると思うと回答している割合が、おとなで 83.4%、職員で 87.9%と高かった。

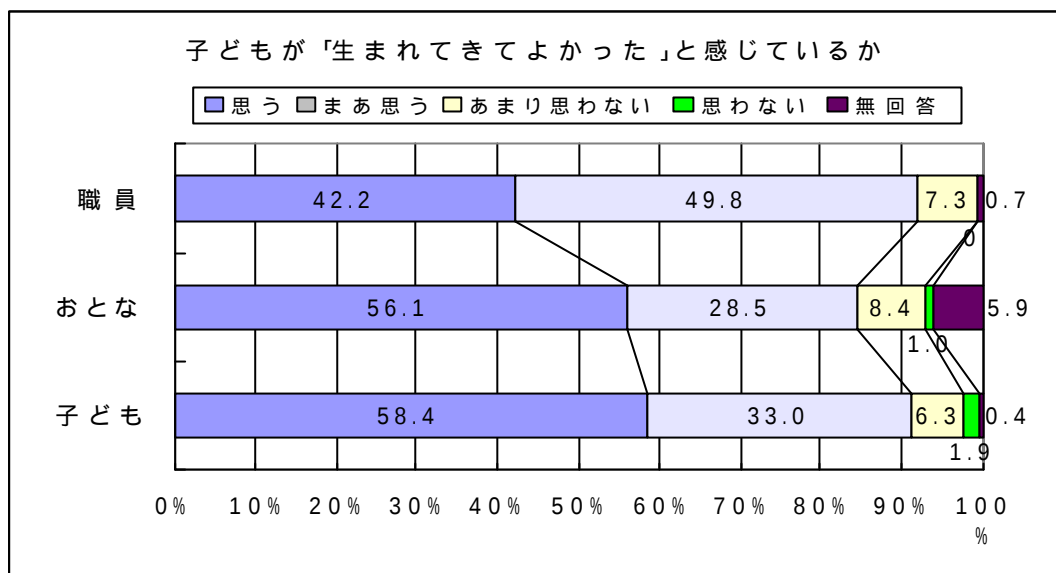
(子ども【問5】おとな・職員【問6】)



ウ 生まれてきてよかったと思うか

子どもは合わせて 91.4%が「感じている」「まあ感じている」と回答している。おとな・職員についても、子どもが生まれてきてよかったと感じていると思うと回答している割合が、おとなで 84.6%、職員で 92.0%と高かった。

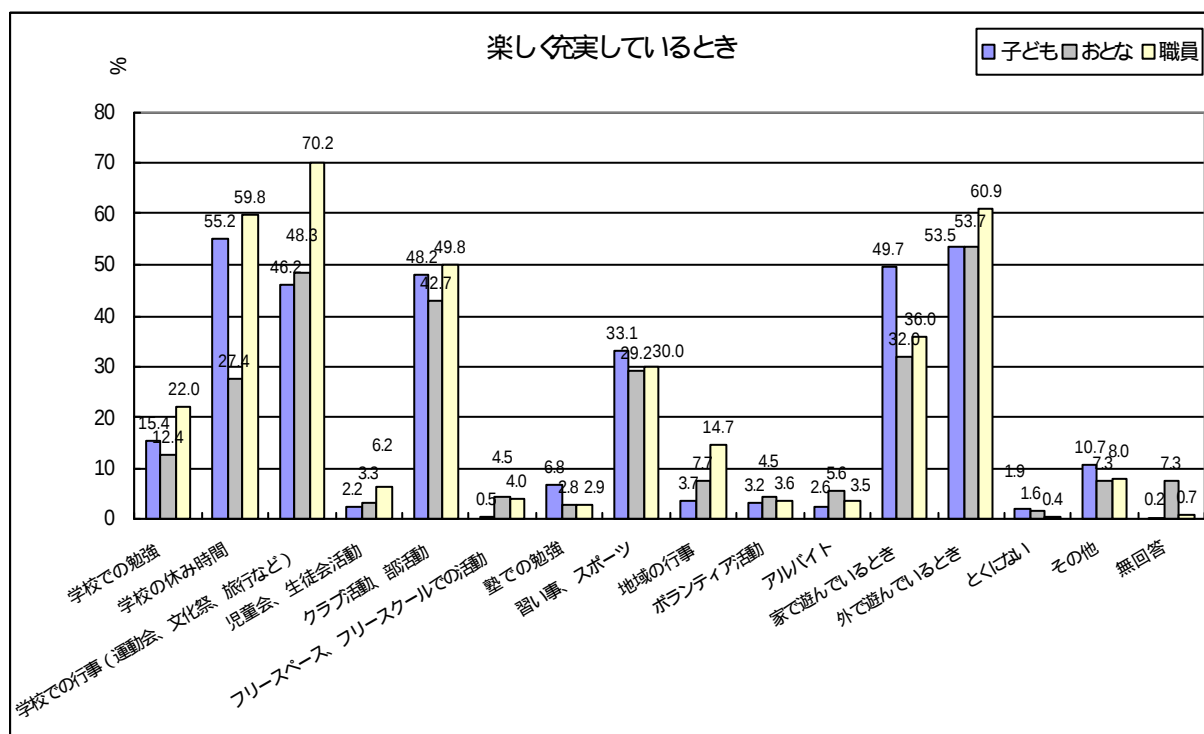
(子ども【問6】 おとな・職員【問7】)



(2) 楽しく充実しているとき

子どもが「楽しく充実している」と感じる時として多くあげているのが「学校の休み時間」(55.2%)「外で遊んでいるとき」(53.5%)「家で遊んでいるとき」(49.7%)「クラブ活動、部活動」(48.2%)「学校での行事」(46.2%)であった。

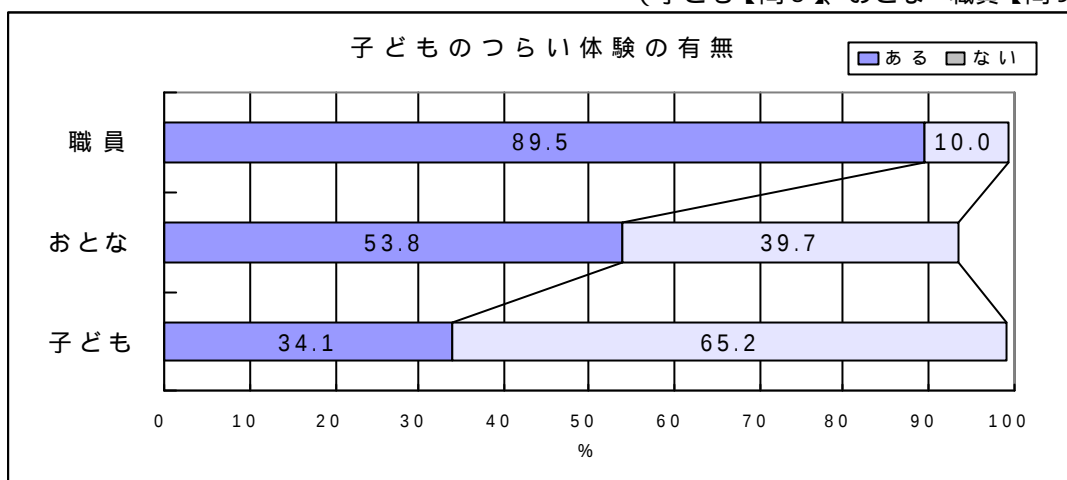
(子ども【問7】 おとな・職員【問8】)



(3) つらい体験があるか

「つらくてどうしようもないことを人から言われたり、されたりしたことがある」と回答した子どもは34.1%であったが、おとな・職員は、実際の子どもの回答以上に、子どもがつらい体験をしていると思っている割合が高かった。

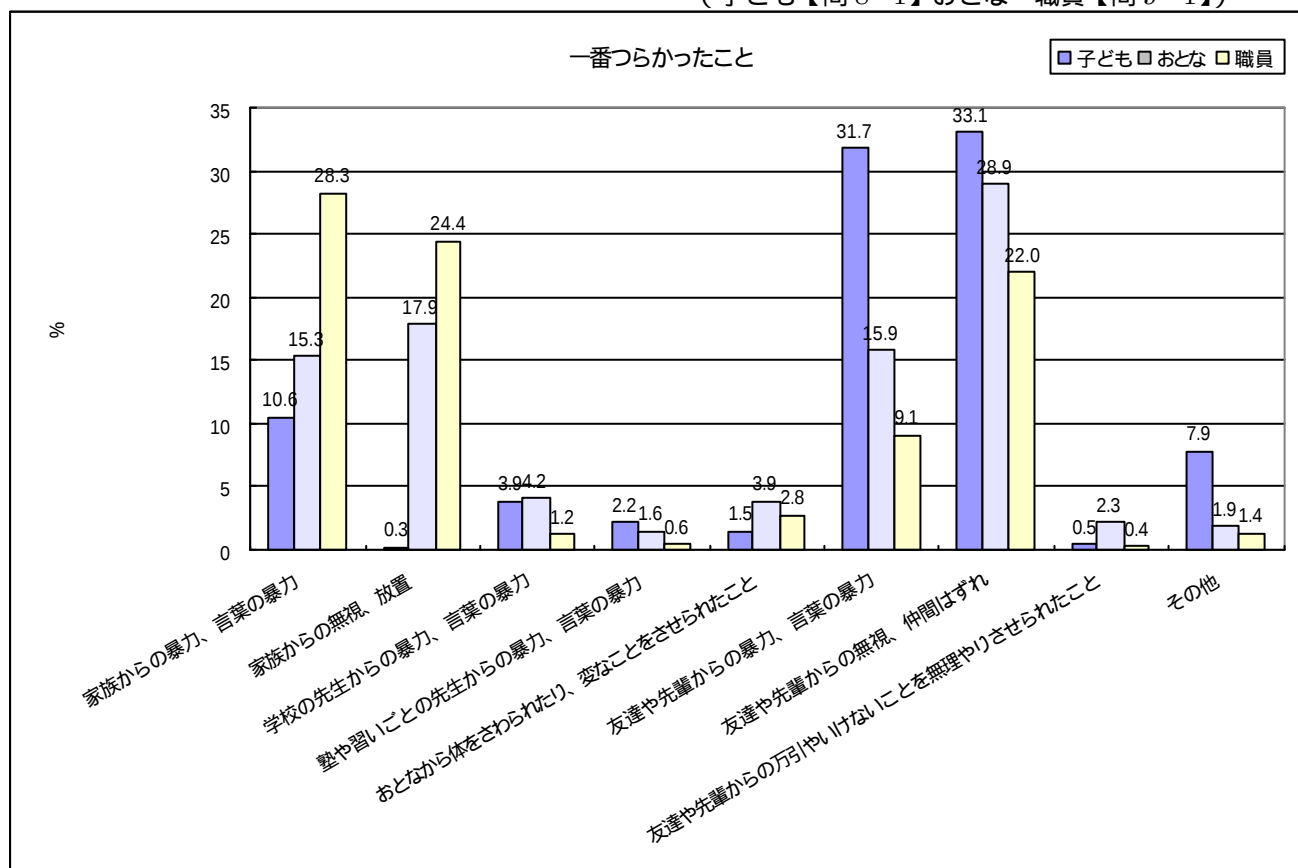
(子ども【問8】 おとな・職員【問9】)



ア 一番つらかったこと

子どもの回答で多くあげられたものは、「友だちや先輩からの無視、仲間はずれ」(33.1%)「友だちや先輩からの暴力、言葉の暴力」(31.7%)であったが、職員は、「家族からの暴力、言葉の暴力」(28.3%)「家族からの無視、放置」(24.4%)をあげる回答が多かった。「家族からの暴力、言葉の暴力」「家族からの無視、放置」をあげる子どもの実際の回答は、それぞれ10.6%、0.6%と低い数値であった。

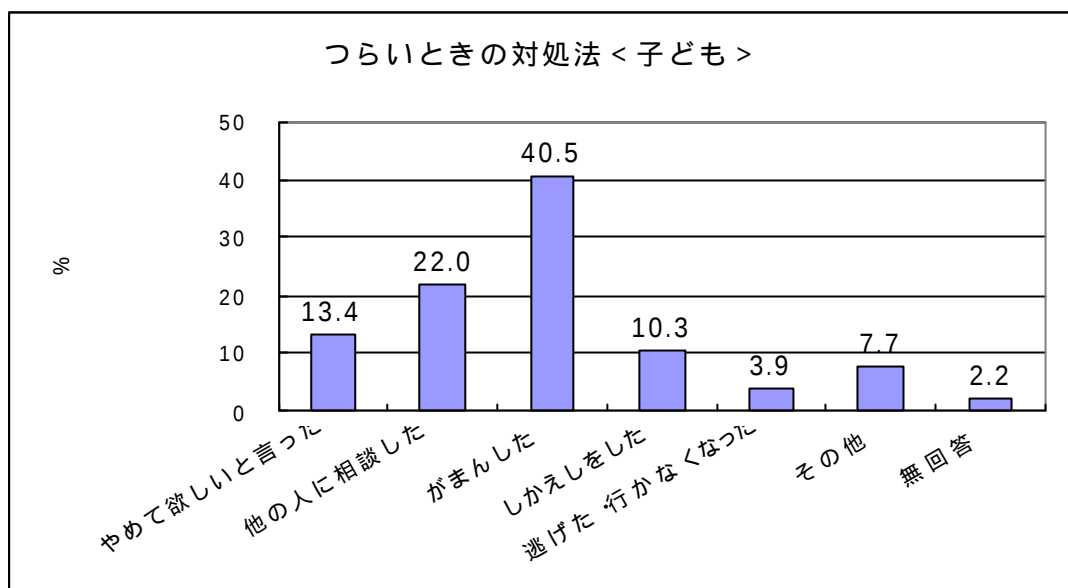
(子ども【問8-1】おとな・職員【問9-1】)



イ そのときの対処法

「がまんした」とする回答が最も多かった（40.5％）。

（子ども【問8-2】）

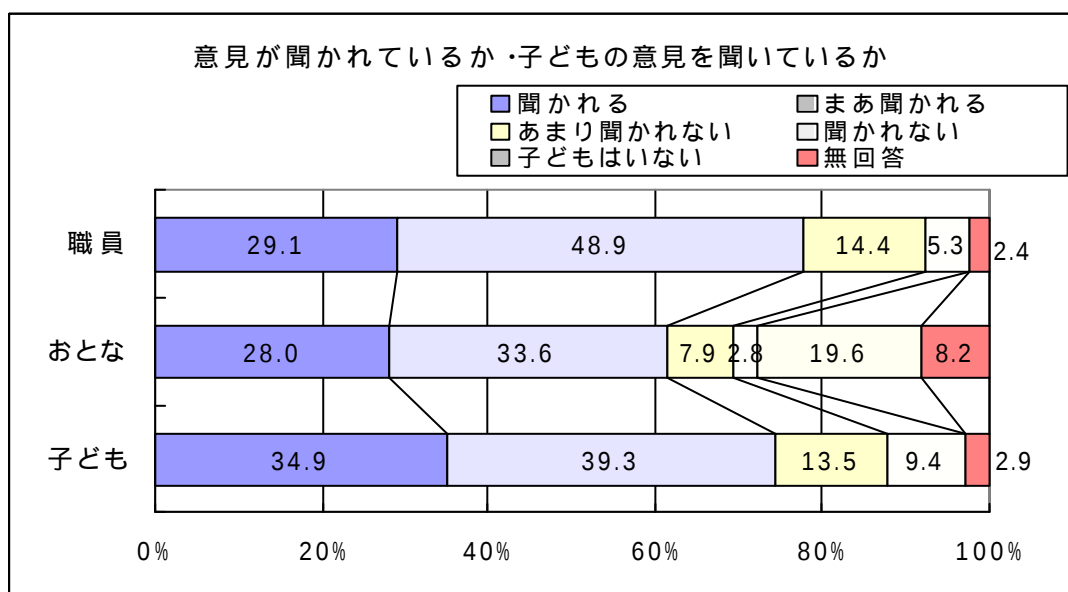


(4) 権利について

ア 家（児童養護施設）で意見を聞かれているか

「意見を聞かれている」と回答する子どもの割合は、「聞かれる」「まあ聞かれる」を合わせて74.2%であった。

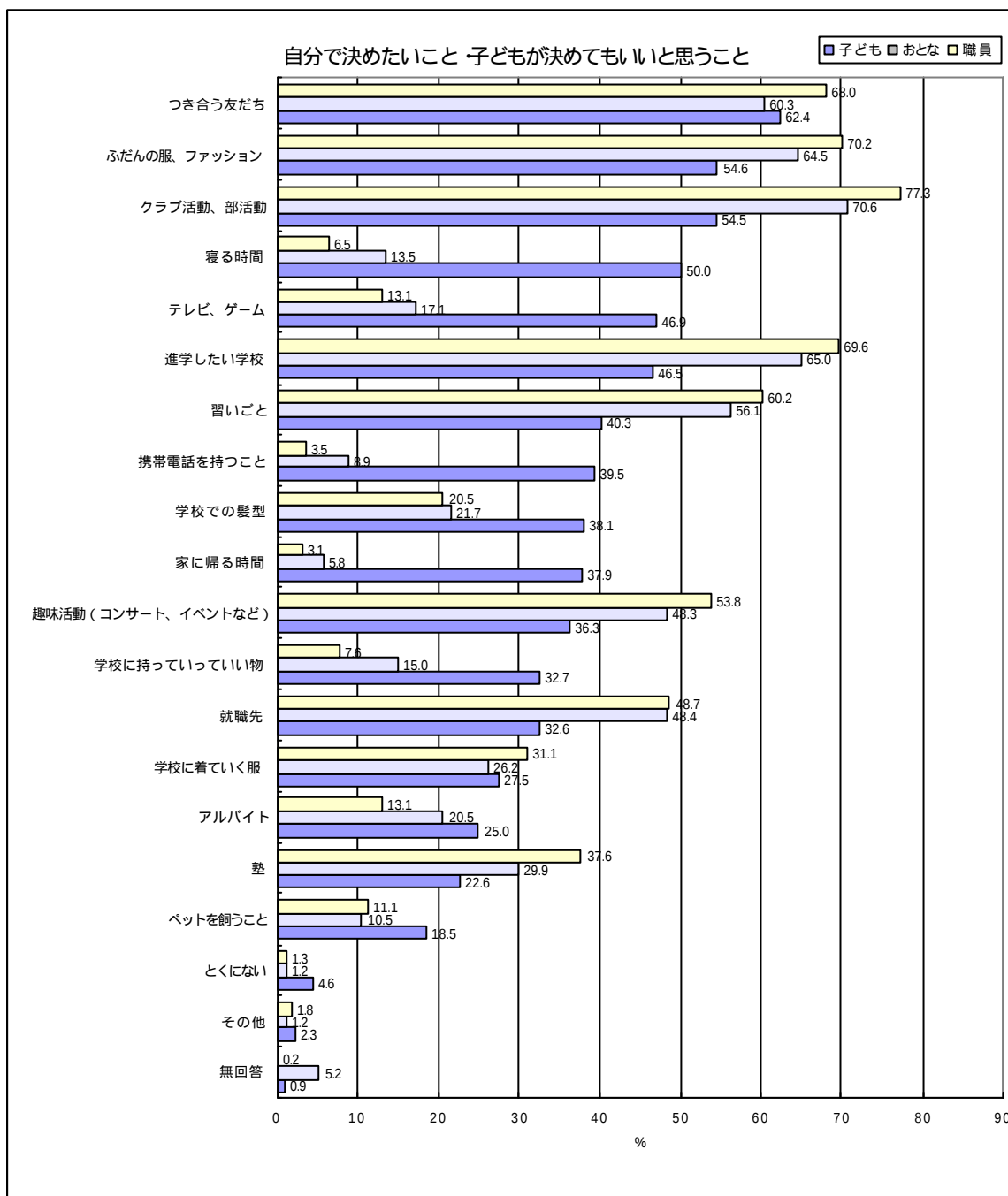
（子ども【問9】 おとな・職員【問11】）



イ 自分で決めたいこと・子どもが決めてもいいと思うこと

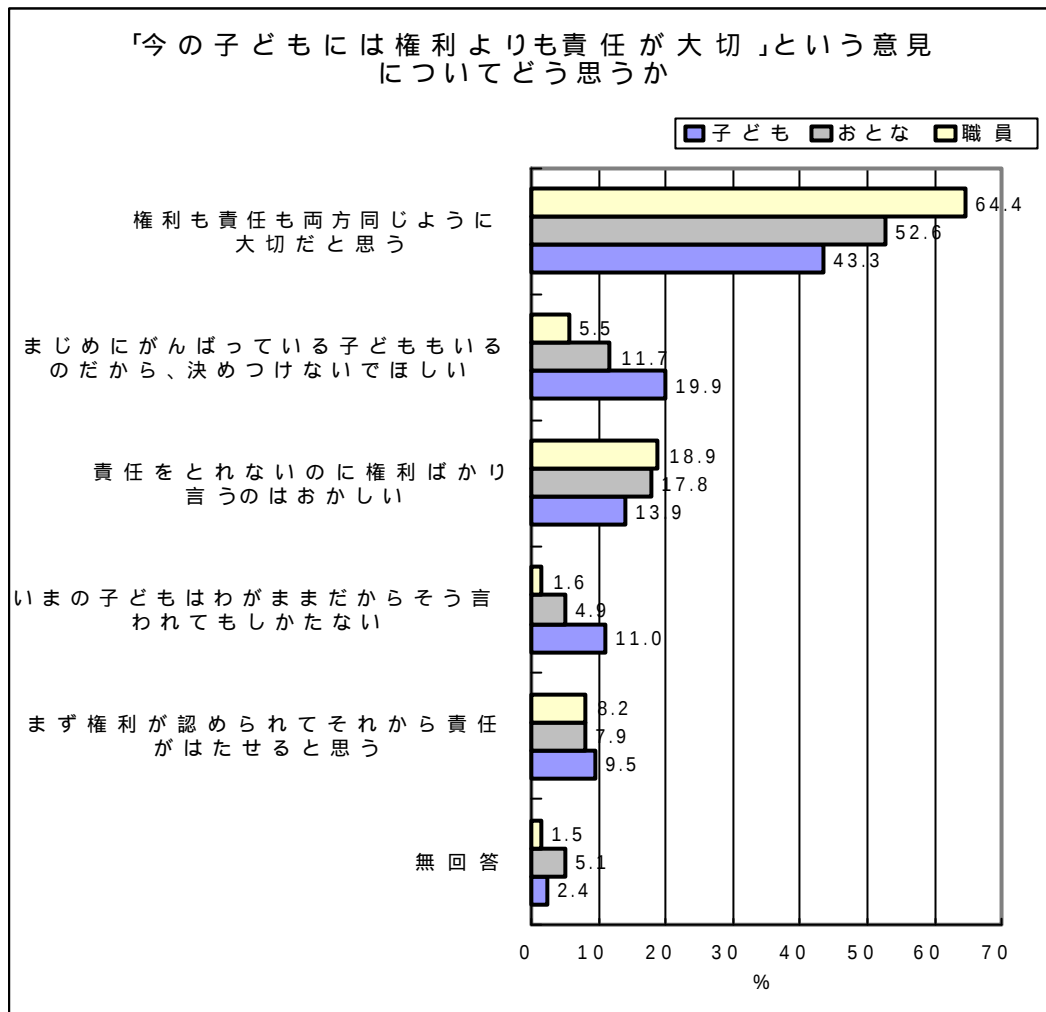
子どもが自分で決めたいこととして多く回答しているものとしては、「つきあう友だち」(62.4%)「ふだんの服、ファッション」(54.6%)「クラブ活動、部活動」(54.5%)「寝る時間」(50.0%)「テレビ、ゲーム」(46.9%)「進学したい学校」(46.5%)などがあった。子どもの回答に比べて、おとな・職員の回答が低いものには、「寝る時間」(子ども—50.0%、おとな—13.5%、職員—6.5%)「テレビ、ゲーム」(子ども—46.9%、おとな—17.1%、職員—13.1%)「携帯電話を持つこと」(子ども—39.5%、おとな—8.9%、職員—3.5%)「学校での髪型」(子ども—38.1%、おとな—21.7%、職員—20.5%)「家に帰る時間」(子ども—37.9%、おとな—5.8%、職員—3.1%)「学校に持って行っていいもの」(子ども—32.7%、おとな—15.0%、職員—7.6%)があった。

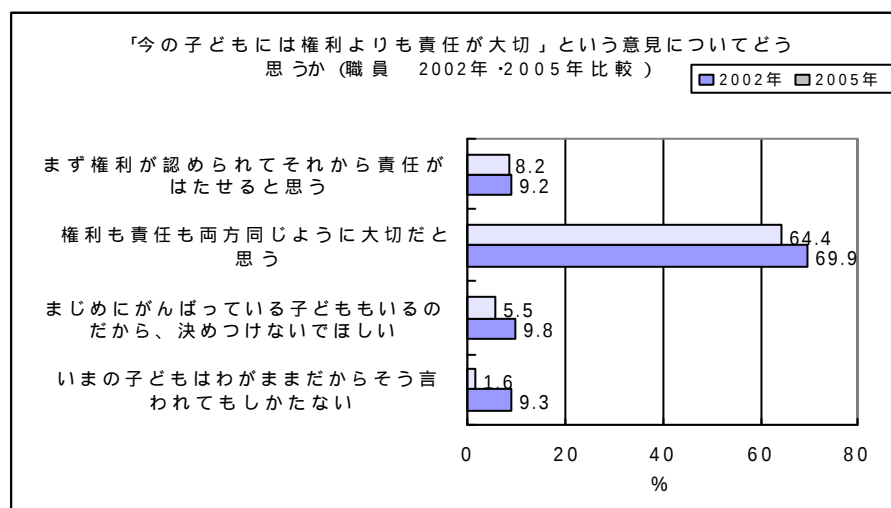
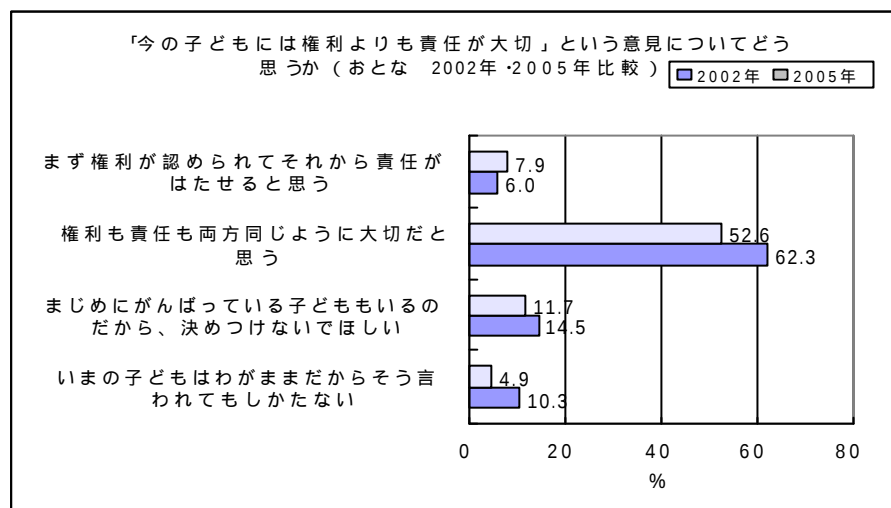
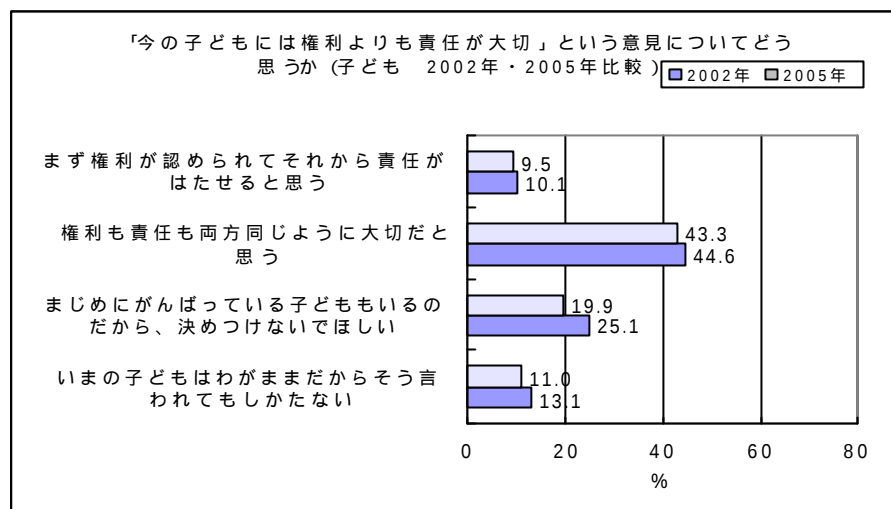
(子ども【問10】、おとな・職員【問12】)



ウ 「今の子どもには権利よりも責任が大切」という意見についてどう思うか

(子ども【問11】、おとな・職員【問13】)

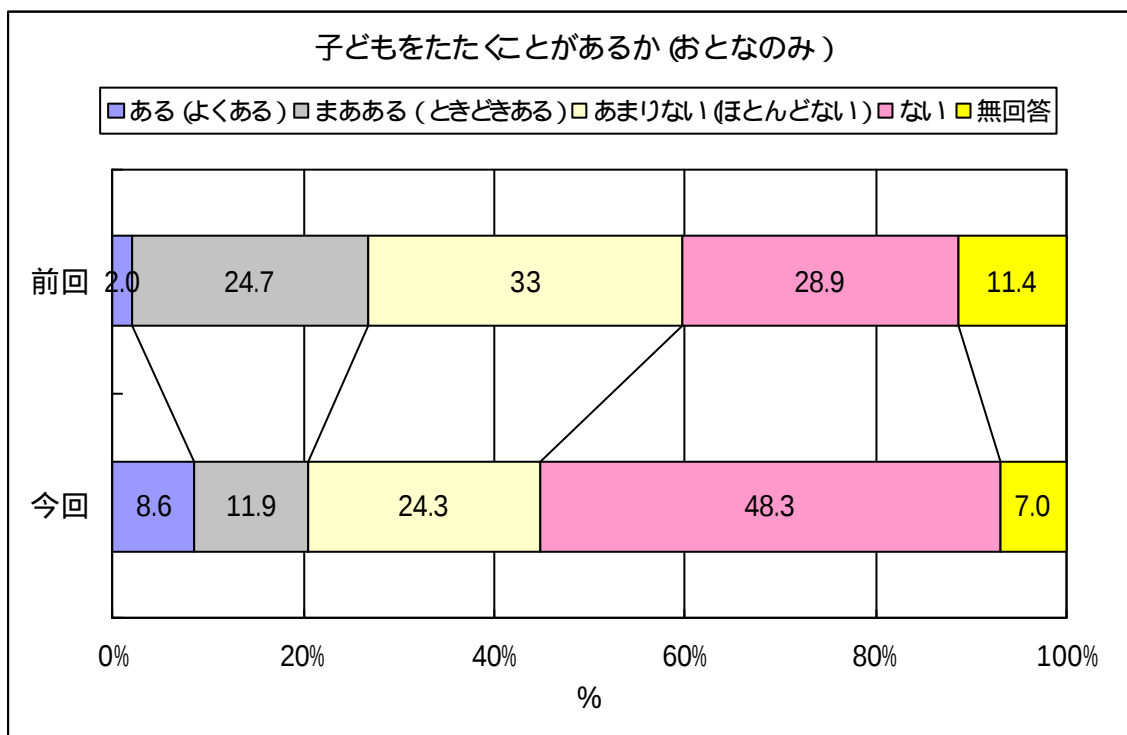
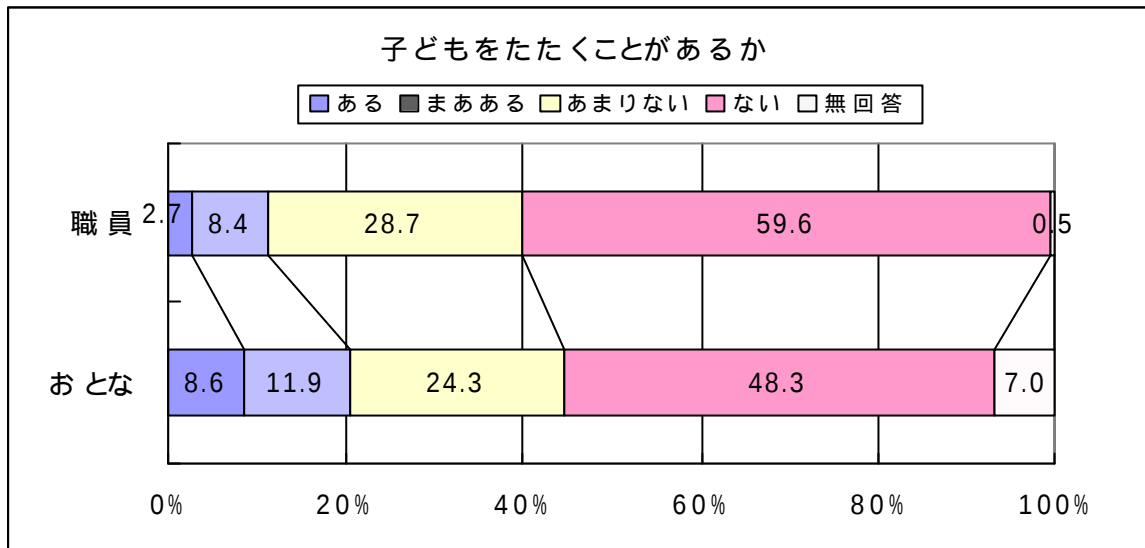




(5) 体罰経験の有無

子どもをたたくことが「ある」「まあある」割合は、おとな—20.5%、職員—11.1%であった。

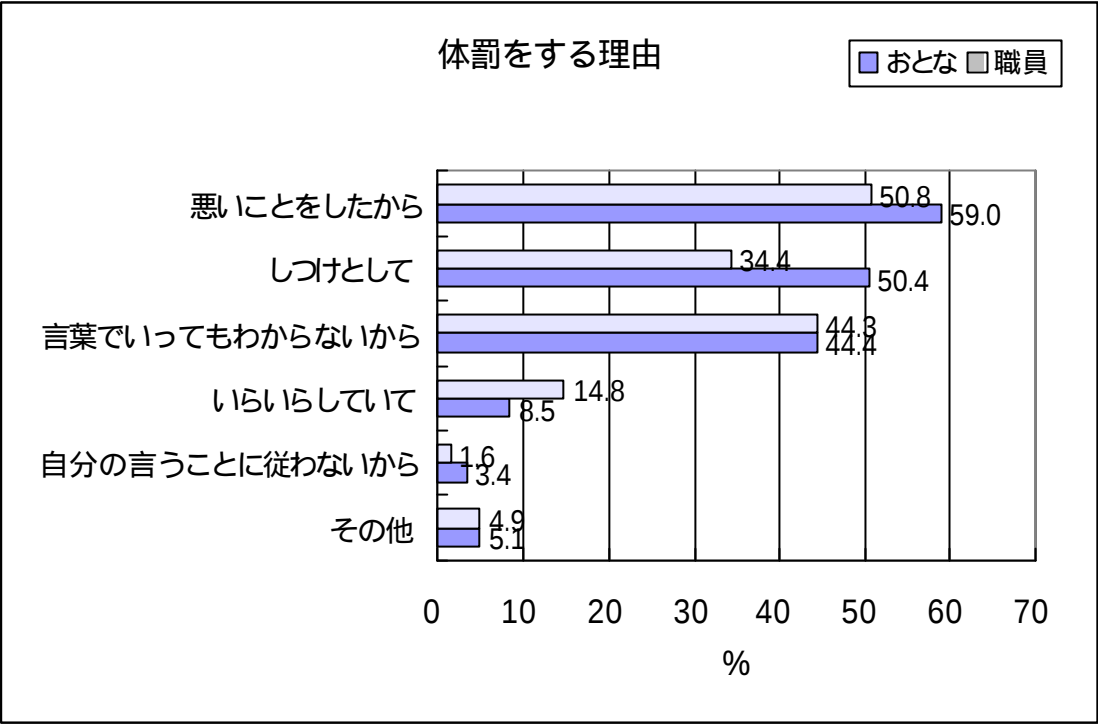
(おとな・職員【問10】)



注)()内は前回調査の選択肢。

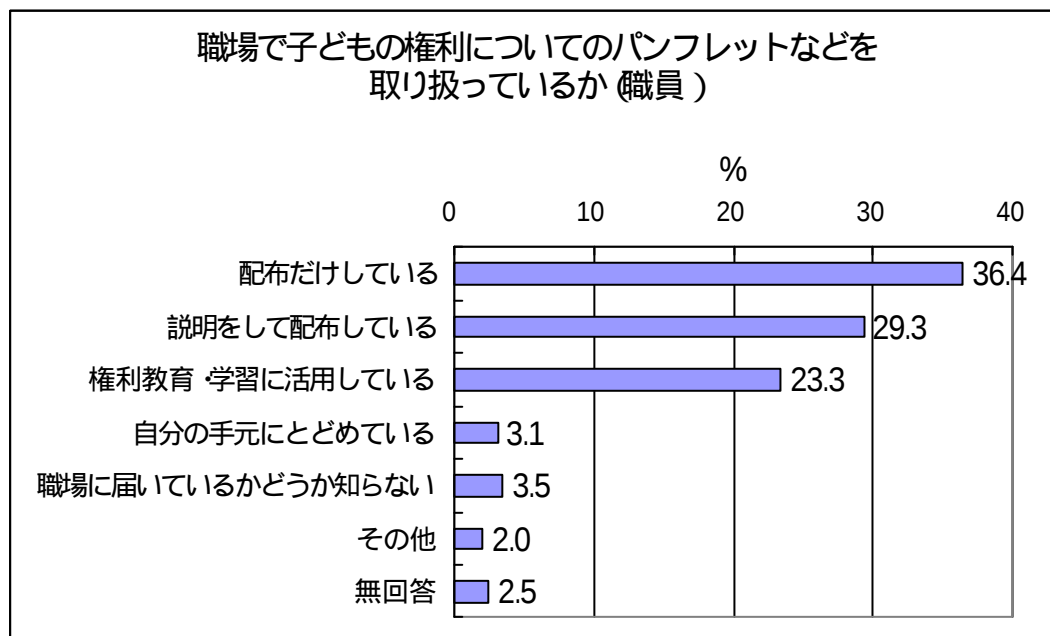
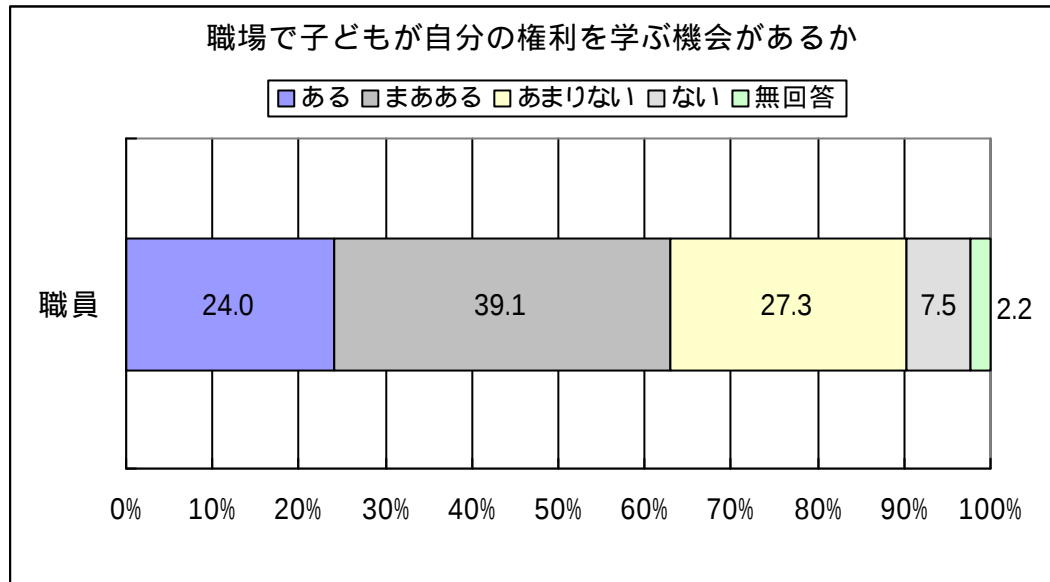
体罰をする理由

(おとな・職員【問 10 - 1】)



(6) 職場で子どもが自分の権利を学ぶ機会があるか

(職員【問 14】【問 15】)

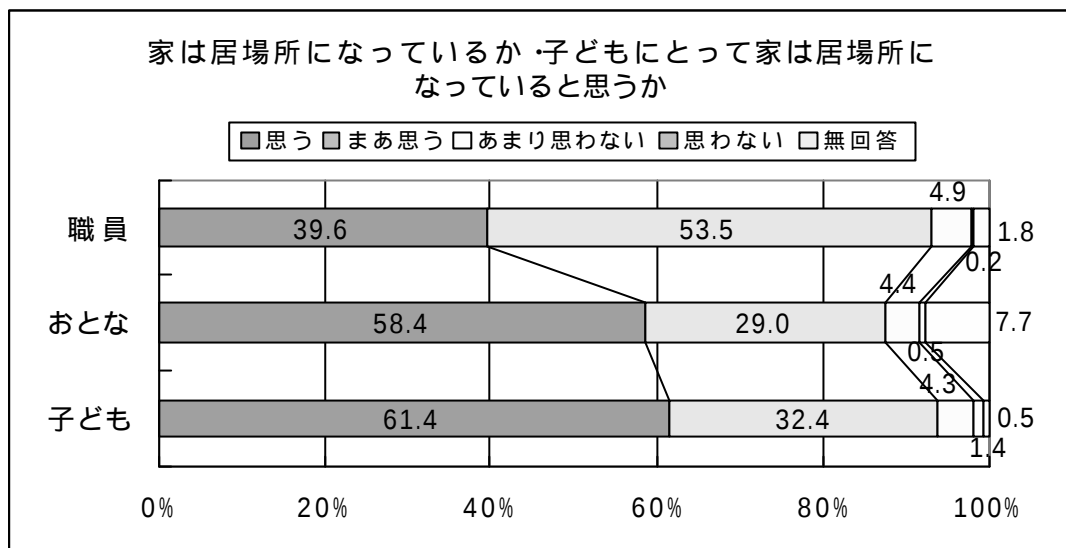


3 子どもにとっての居場所や活動

(1) 家が居場所になっているか・子どもにとって家は居場所になっていると思うか

家が居場所になっていると「思う」「まあ思う」と回答する子どもは、93.8%であった。

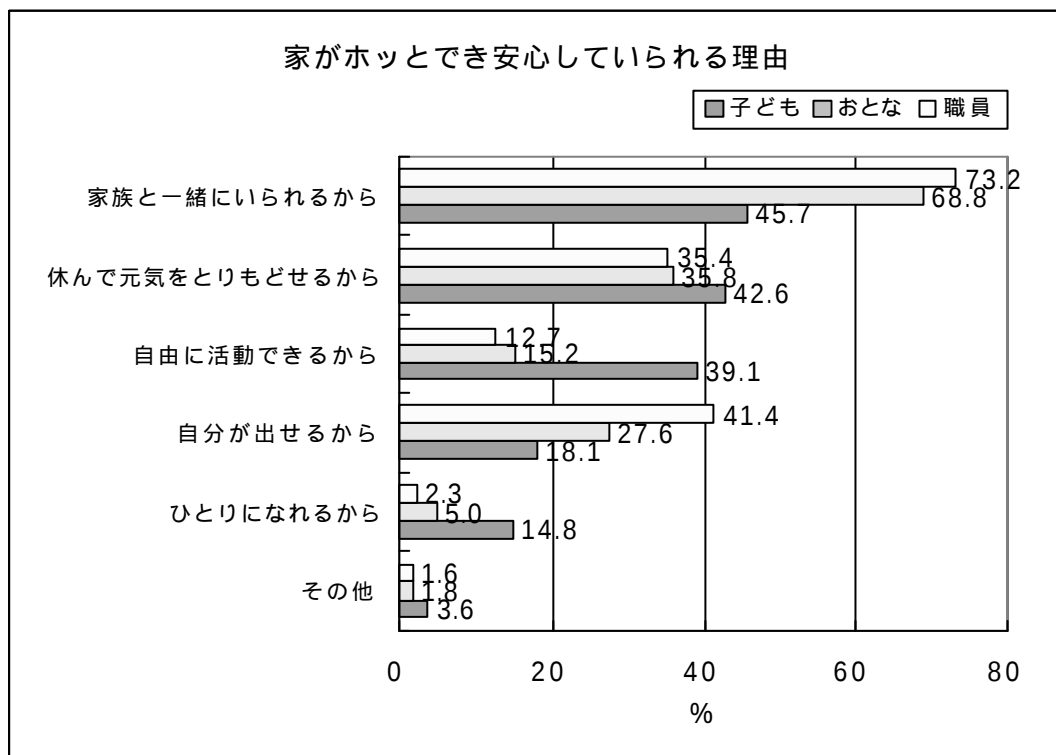
(子ども【問12】、おとな【問14】、職員【問16】)



その理由

「家族と一緒にいられるから」と回答する割合は、おとな—68.8%、職員—73.2%であったが、子どもの回答する割合は、45.7%にとどまった。逆に、子どもの回答で多かったものに「自由に活動できるから」(39.1%)があるが、おとなでは15.2%、職員では12.7%にとどまった。また、「ひとりになれるから」とする回答も、子どもでは14.8%あったが、おとなでは5.0%、職員—2.3%と低かった。

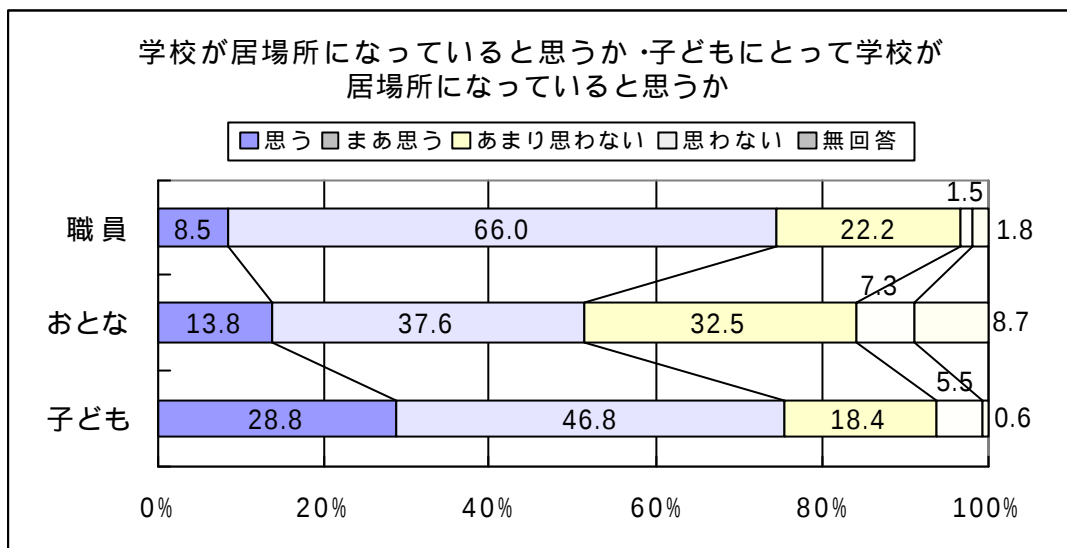
(子ども【問12-1】、おとな【問14-1】、職員【問16-1】)



(2) 学校が居場所になっているか・子どもにとって学校は居場所になっていると思うか

学校が居場所になっていると「思う」「まあ思う」子どもの割合は、75.6%であった。それに比べて、おとなの「思う」「まあ思う」割合は、51.4%と低い。教師については74.5%であるが、「思う」割合は8.5%で、子どもの28.8%に比べて低かった。

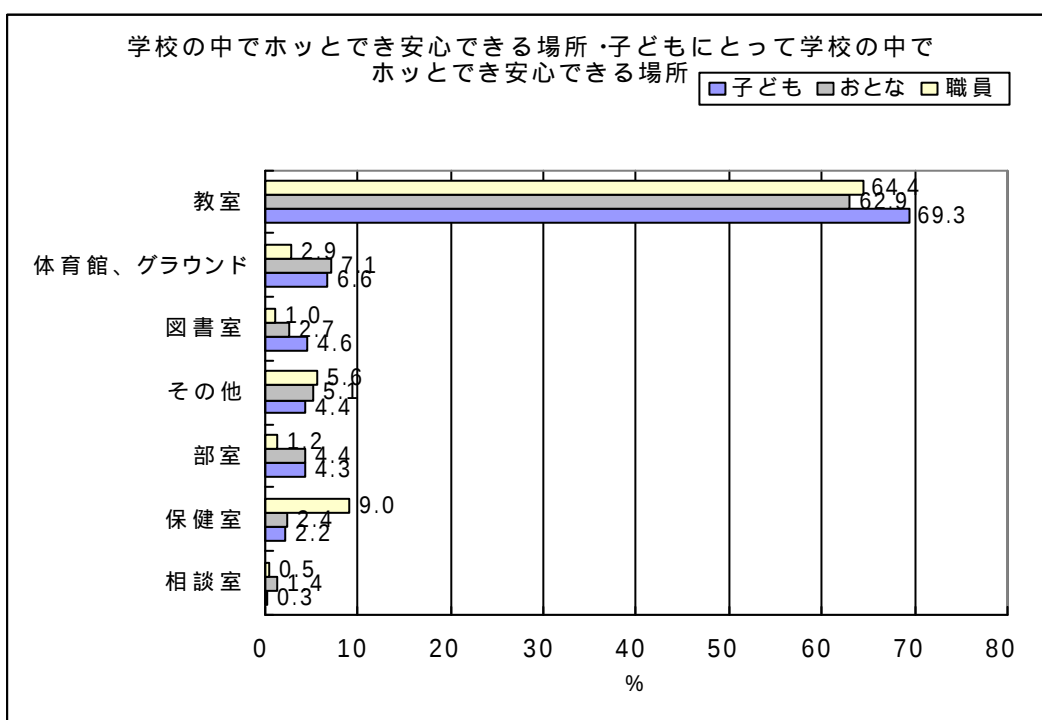
(子ども【問13】、おとな【問15】、職員【問17】)



ア 学校の中でホッとでき、安心できる場所

学校の中でホッとでき、安心できる場所としては、「教室」をあげる回答が最も多かった。

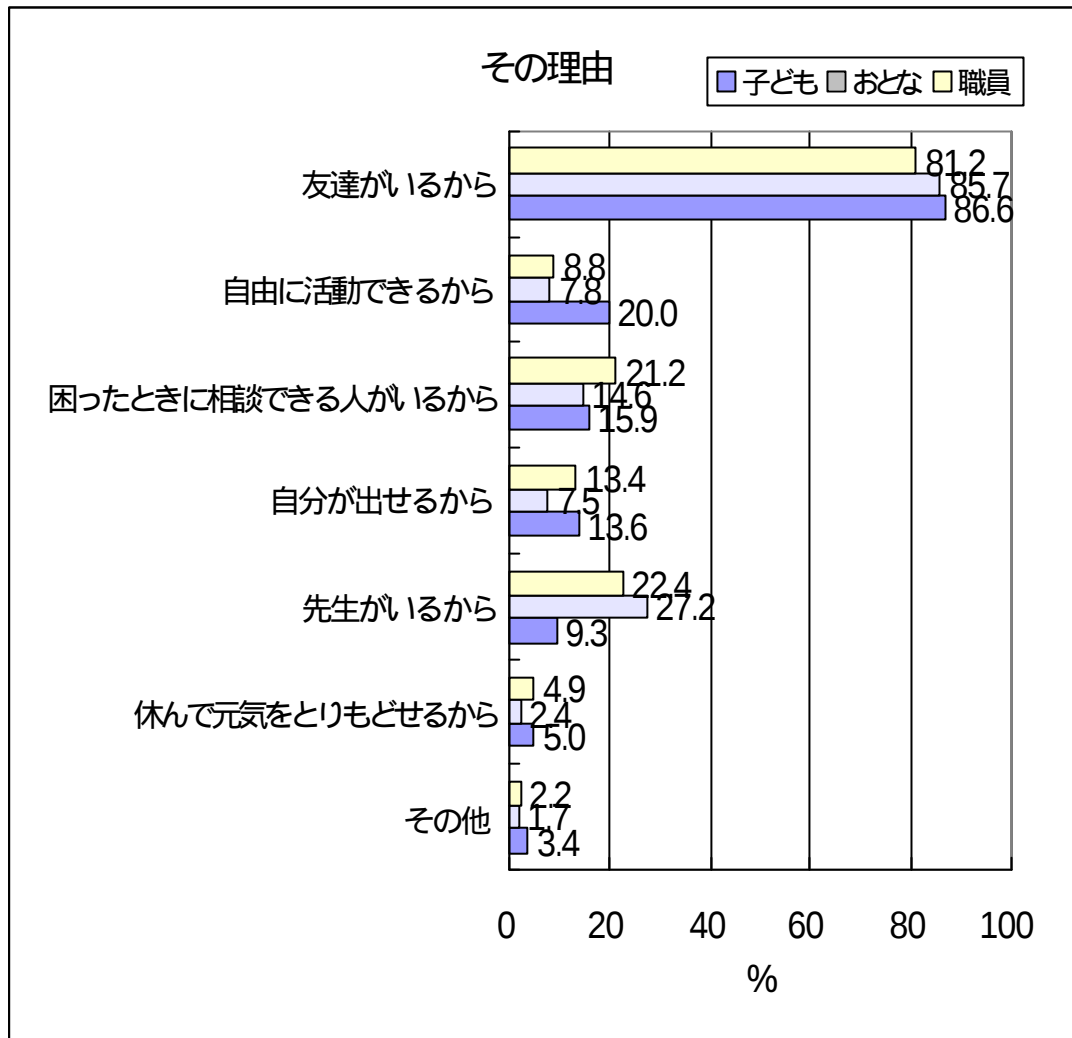
(子ども【問13-1】、おとな【問15-1】、職員【問17-1】)



イ ホットでき、安心できる理由

学校がホットでき、安心できる理由としては、「友だちがいるから」（子ども—86.6%、おとな—85.7%、職員—81.2%）が非常に多かった。なお、おとな・職員の回答では、「先生がいるから」をあげる割合は比較的高いものの（おとな—27.2%、職員—22.4%）子どもの回答は9.3%にとどまった。

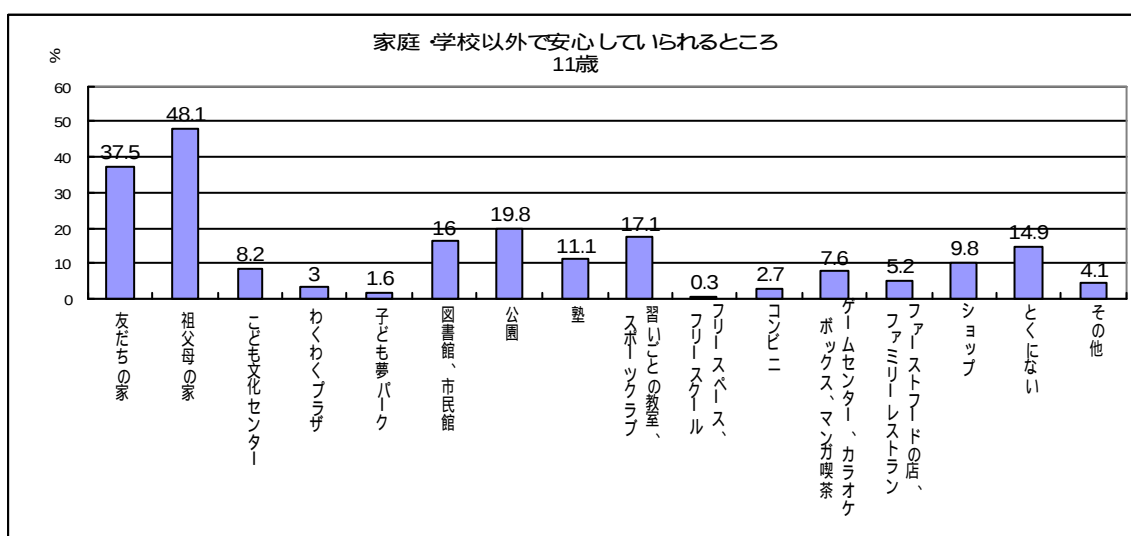
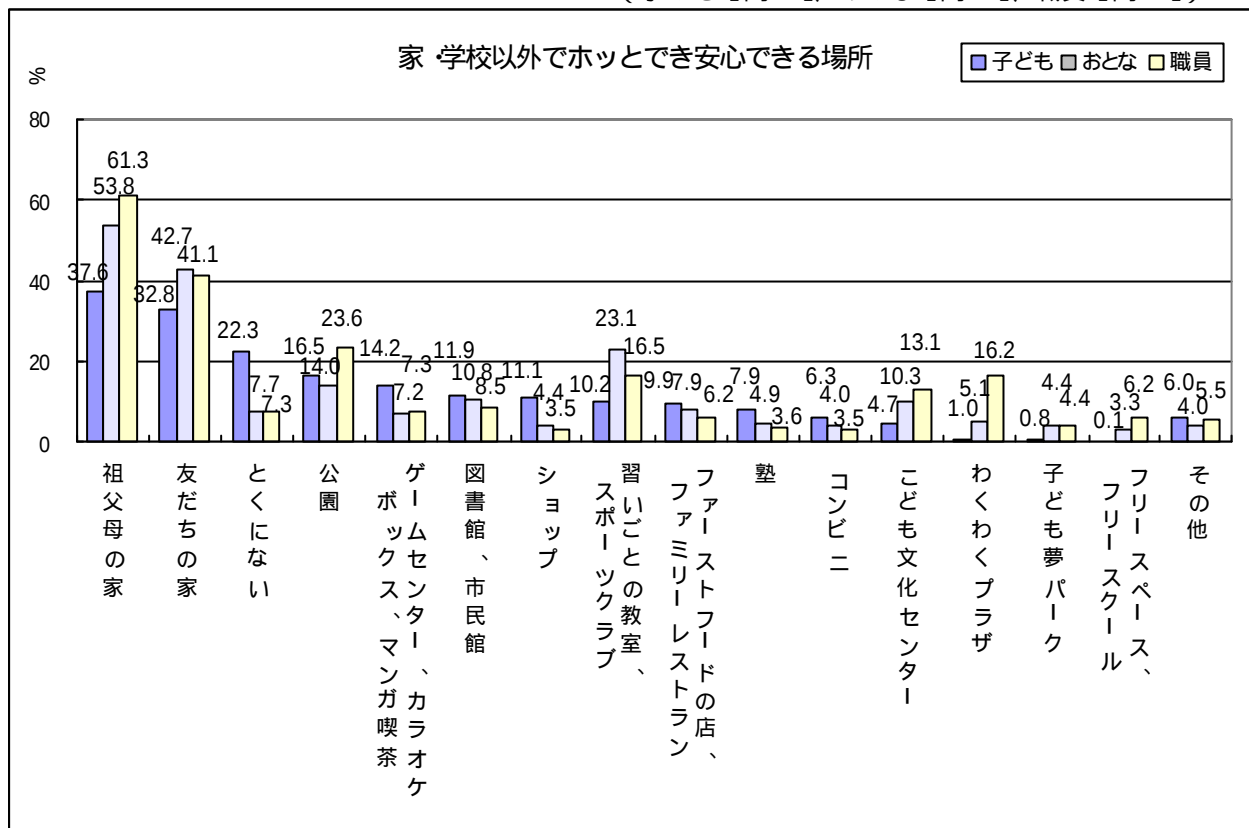
（子ども【問13 - 2】、おとな【問15 - 2】、職員【問17 - 2】）

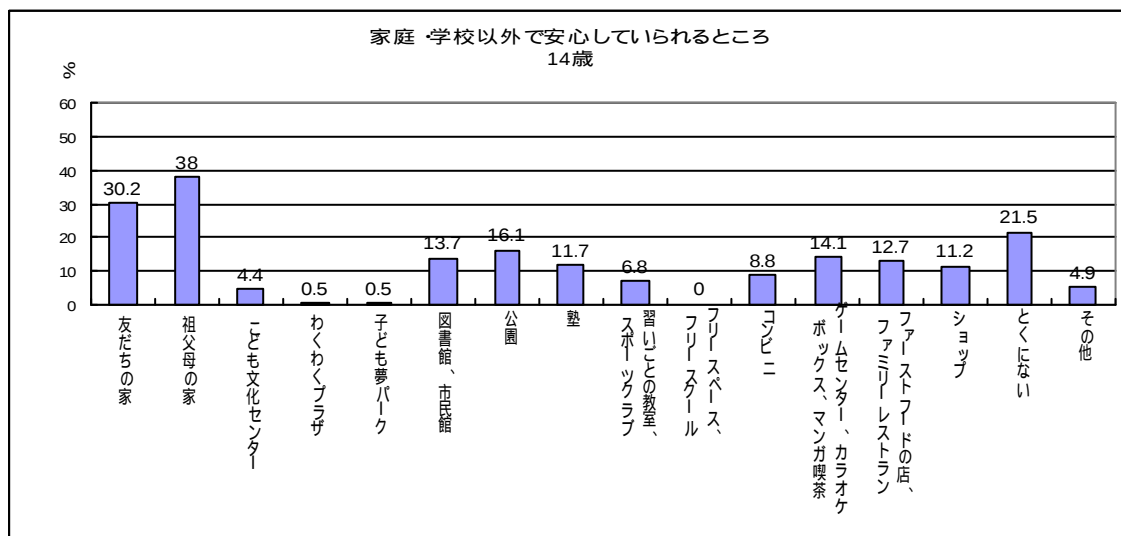
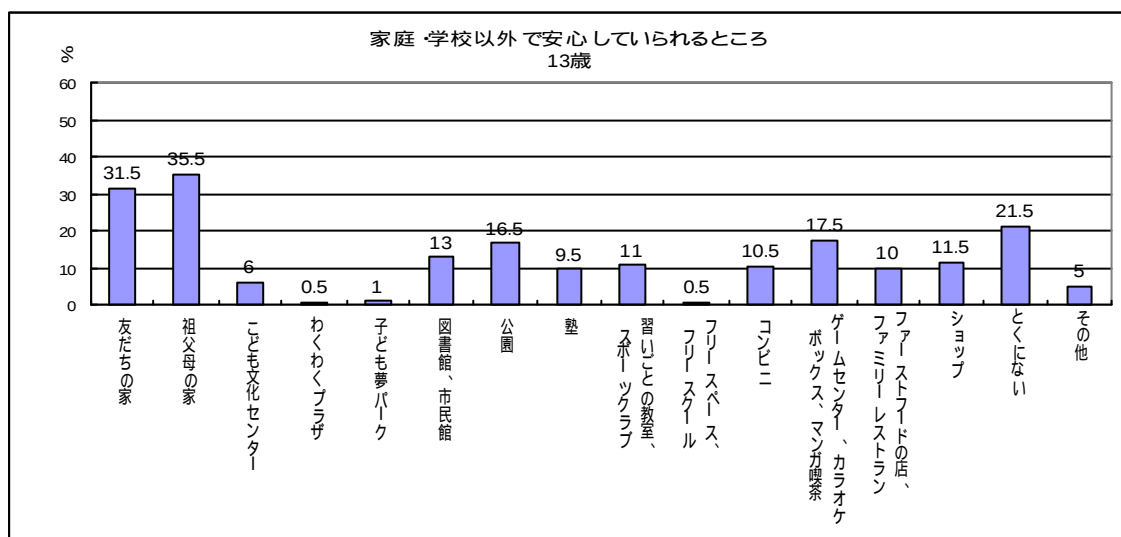
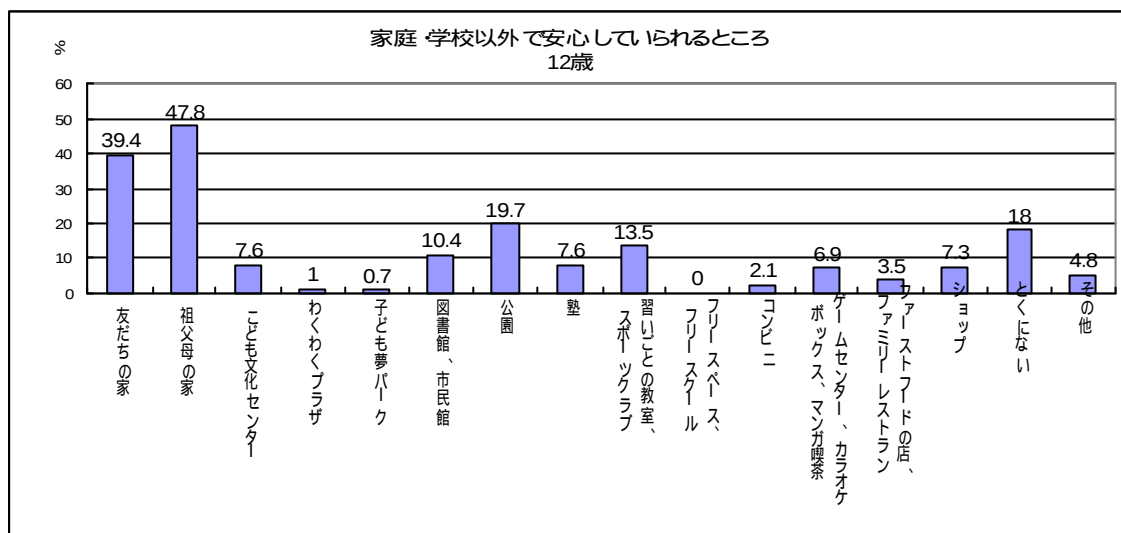


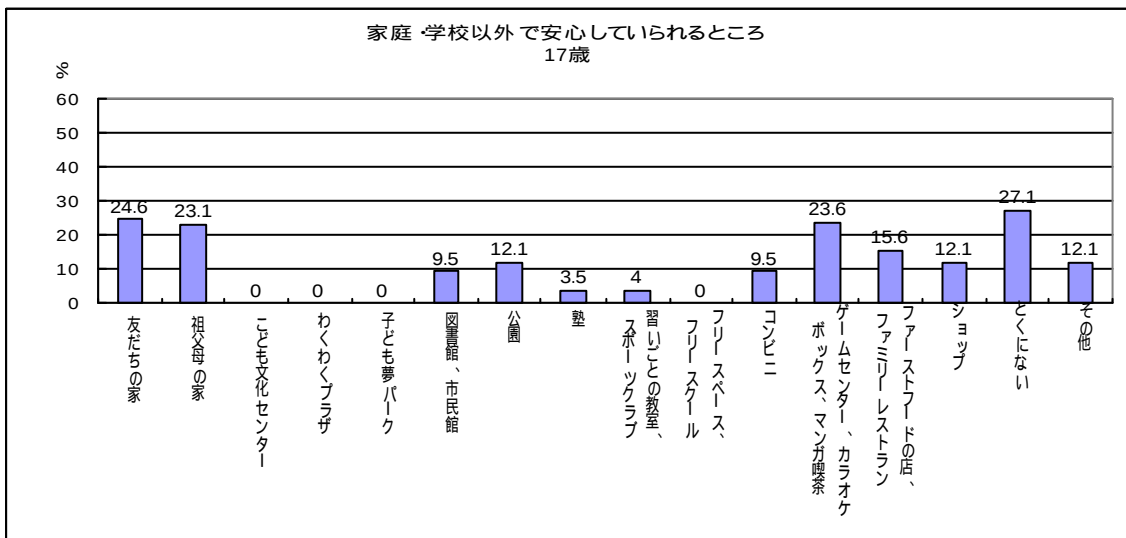
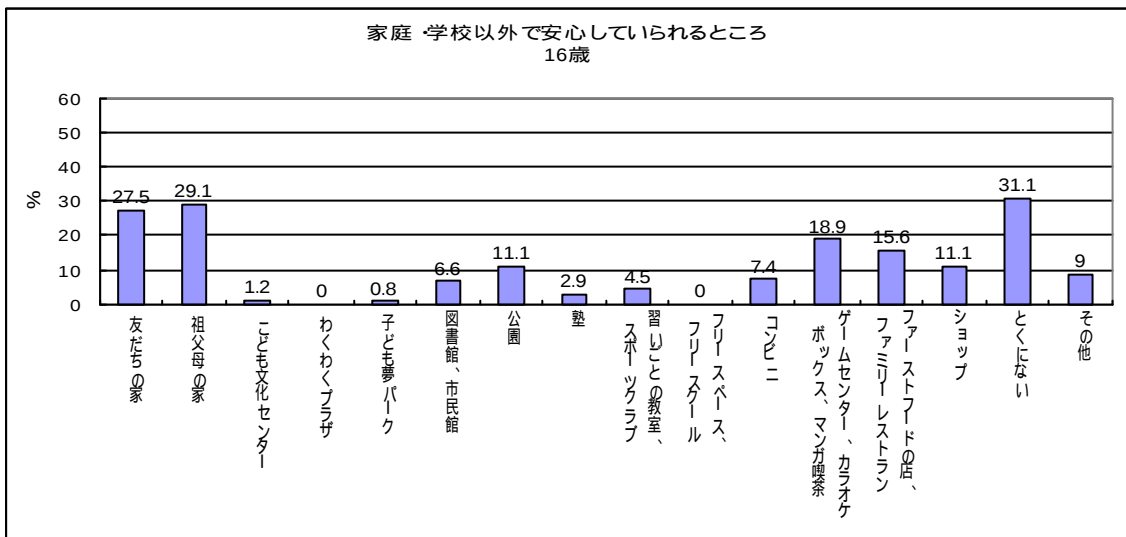
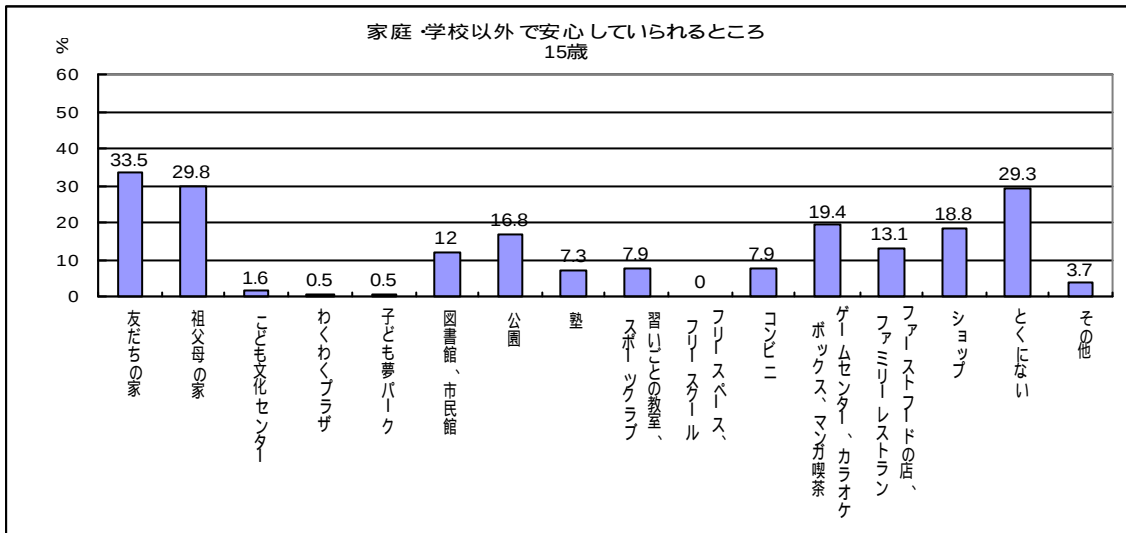
(3) 家・学校以外のホッとでき、安心できる場所

子どもの回答で多いものとしては、「祖父母の家」(37.6%)、「友だちの家」(32.8%)があった。また、「とくにない」とする回答が22.3%と高い割合だったが、おとな・職員が、子どもにとって家・学校以外のホッとでき、安心できる場所は「とくにない」と思うと回答する割合は、おとな7.7%、職員7.3%と低く、子どもの回答とおとな・職員の回答とで開きが見られた。

(子ども【問14】 おとな【問16】、職員【問18】)

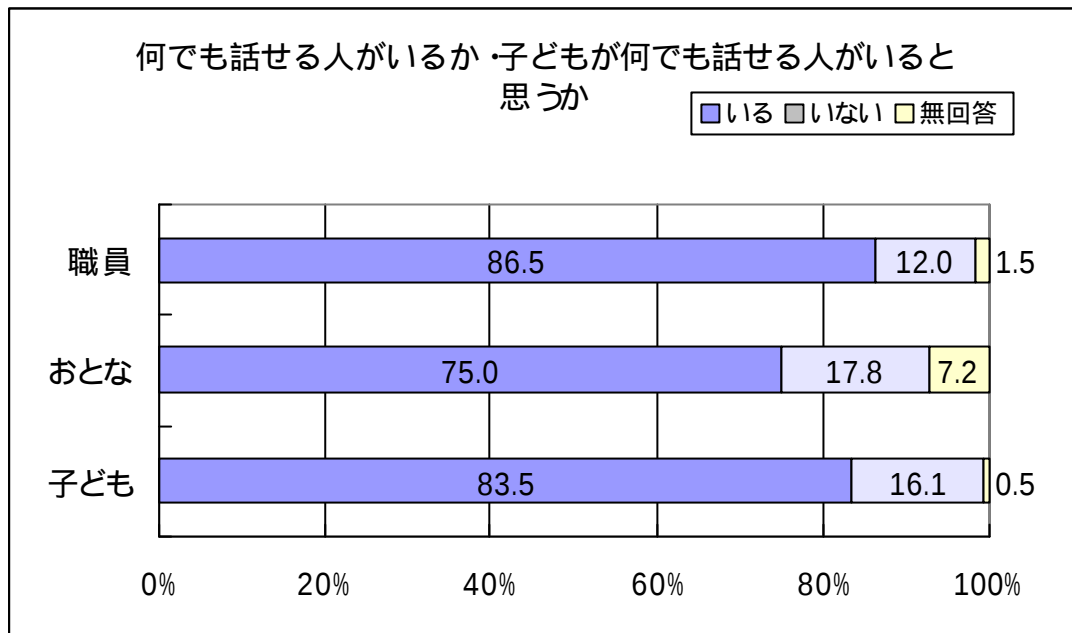






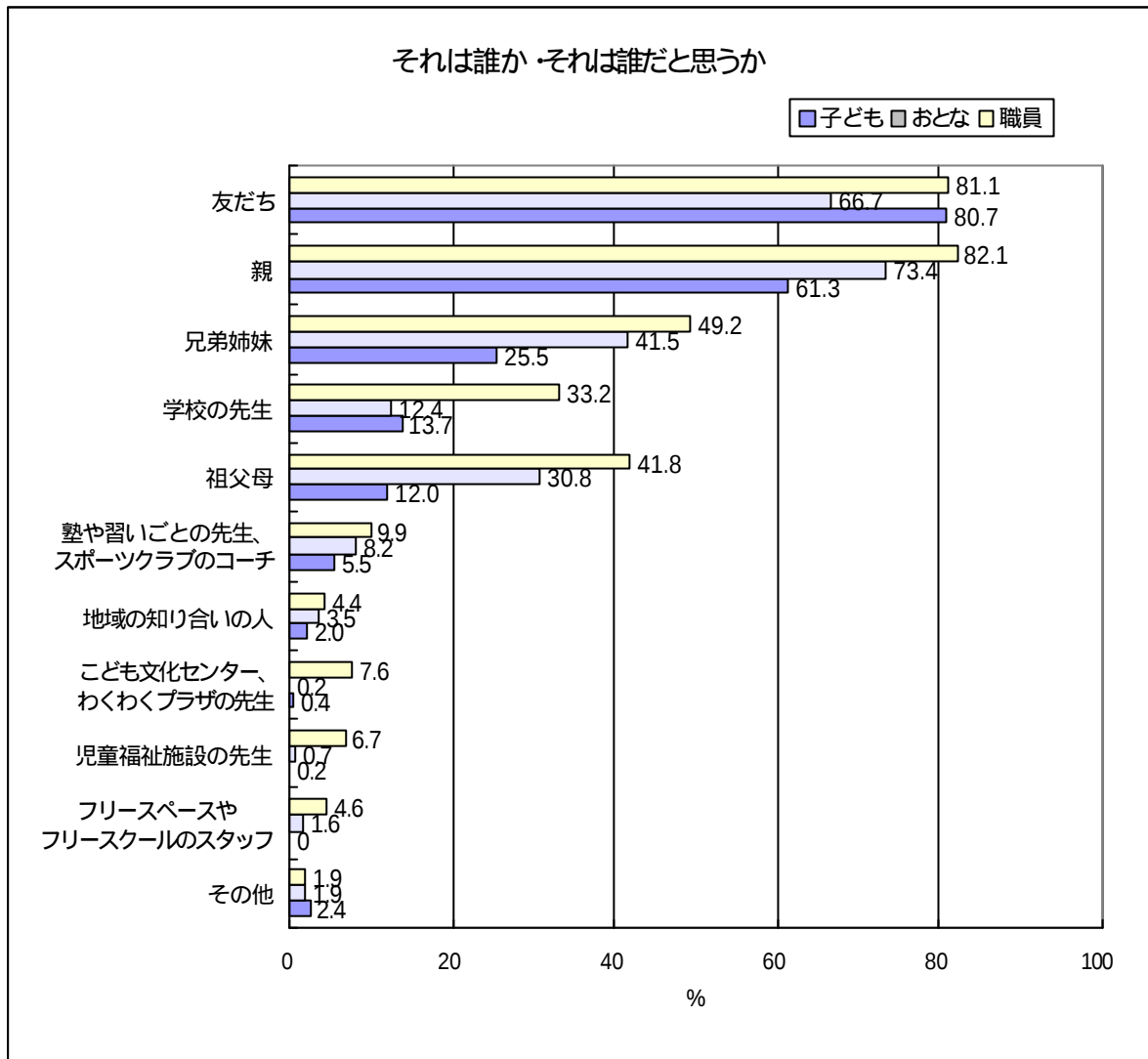
(4) 何でも話せる人がいるか・子どもが話したいことを何でも話せる人がいると思うか

(子ども【問 15】、おとな【問 17】、職員【問 19】)



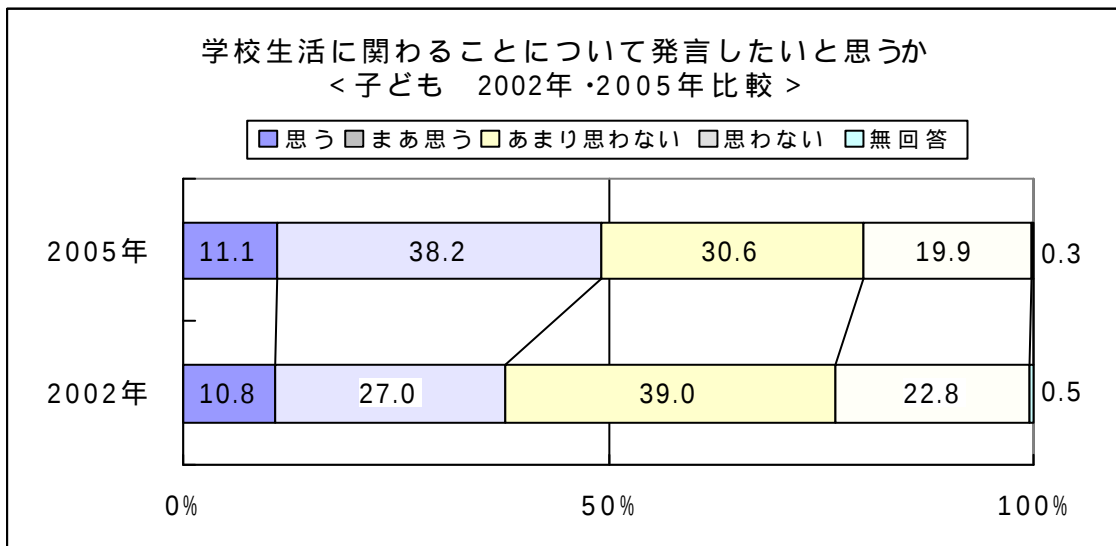
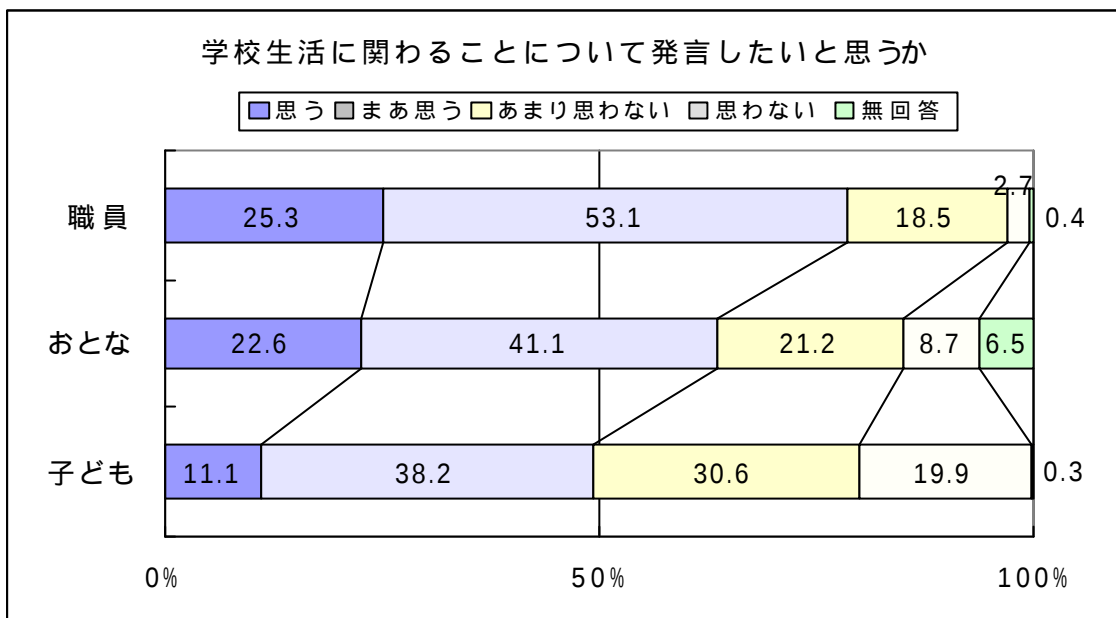
それは誰か・それは誰だと思うか

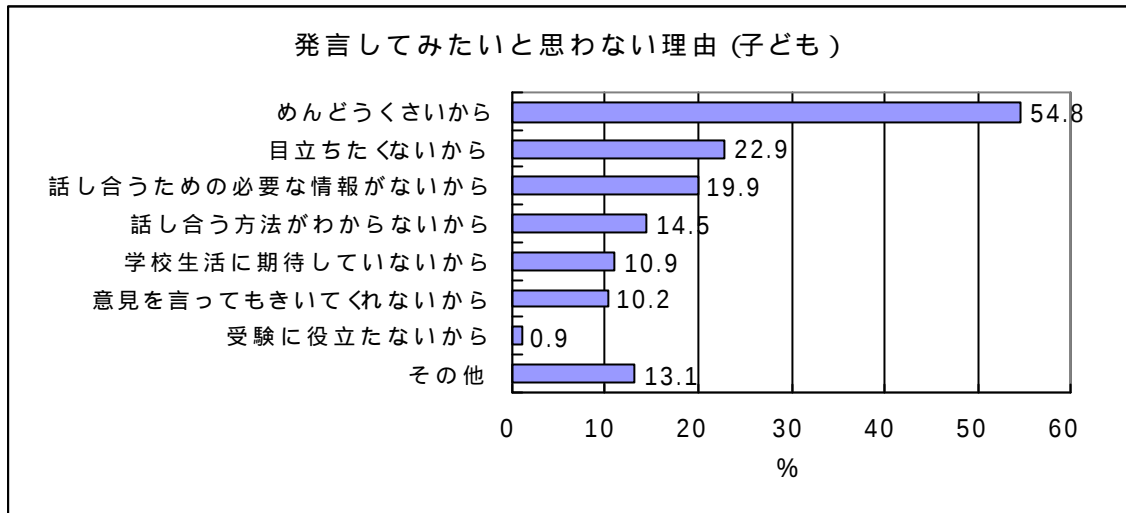
(子ども【問 15 - 1】、おとな【問 17 - 1】、職員【問 19 - 1】)



(5) 学校生活にかかわることについて、学校の先生・職員、親、自分の住んでいる地域の人たちと一緒に話し合う機会があれば発言したいと思うか

(子ども【問16】、おとな【問18】、職員【問20】)

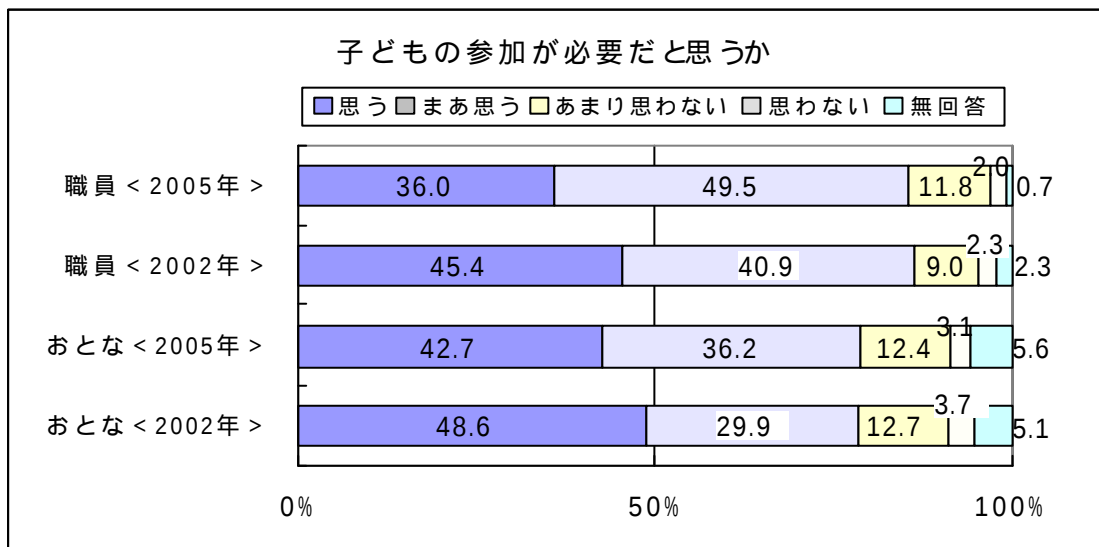




子どもの参加が必要だと思うか

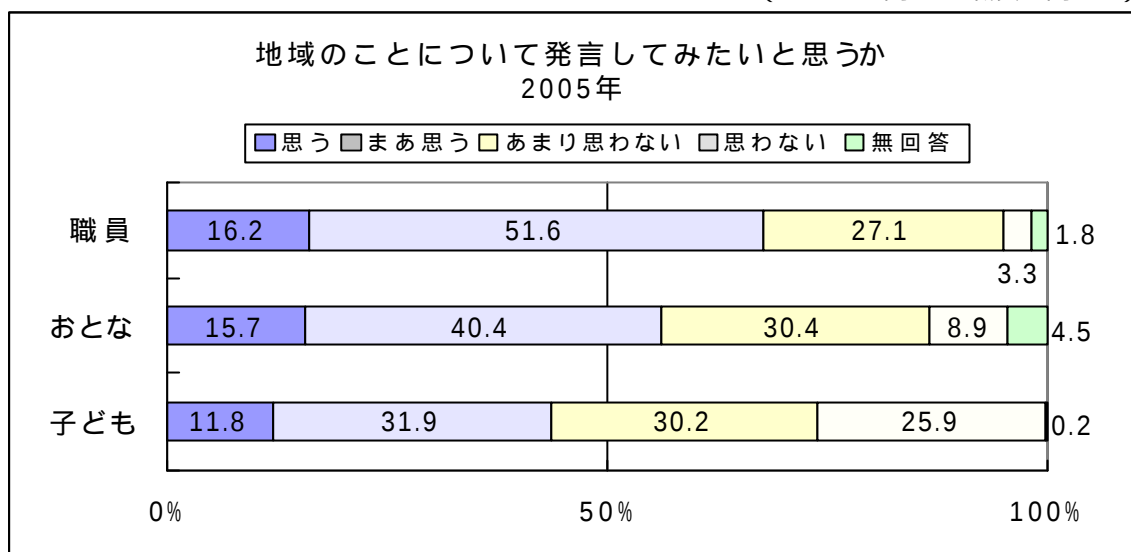
前回調査と比較すると、おとな・職員ともに、子ども参加が「必要だと思う」「まあ思う」割合は、ほとんど変わらない（おとな：78.5% 78.9%、職員：86.3% 85.5%）が、「必要だと思う」割合は、やや減少している（おとな：48.6% 42.7%、職員：45.4% 36.0%）。

（おとな【問 18】職員【問 20】）



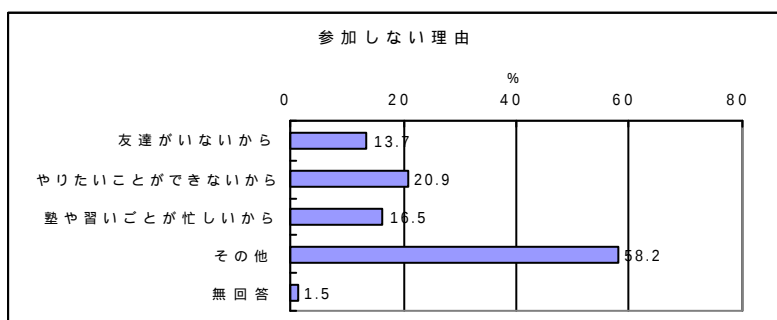
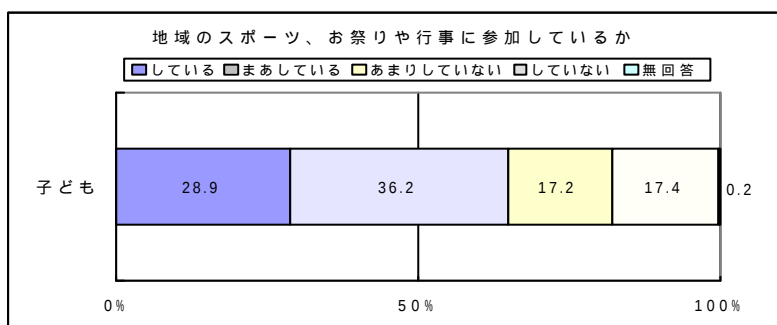
(6) 地域などでの参加状況

(おとな【問 20】職員【問 22】)



ア 地域でのスポーツ、お祭り、行事に参加しているか

(子ども【問 17】)



<参加しない理由>

おもしろくない・つまらない

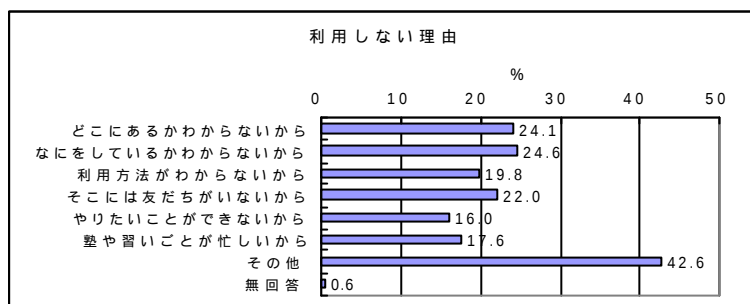
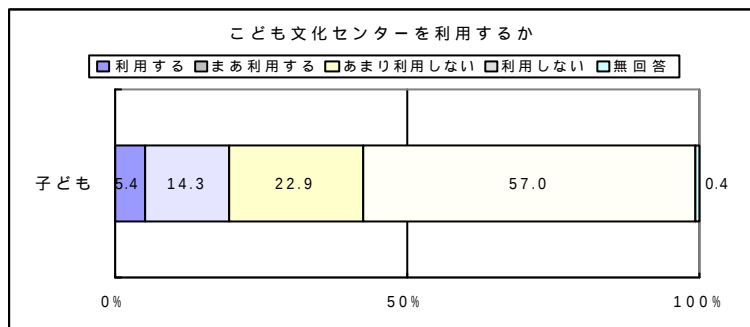
- ・「つまらないから」(13歳・女)(16歳・男)

時間がないから

- ・「行く時間がないから」(14歳・女)(15歳・女)

イ こども文化センターの利用度

(子ども【問 18】)



<こども文化センターを利用しない理由 「その他」意見>

おもしろくない・飽きた・つまらない

- ・「何回が行ったがあきた」(11歳・女)
- ・「おもしろい遊具がない」(11歳・女)
- ・「おもしろくないから」(12歳・女)
- ・「やることがない」(13歳・男)(14歳・男)

時間がない・遠い

- ・「行く時間がないから」(11歳・女)(14歳・男)(14歳・女)(16歳・女)(15歳・女)
- ・「家の近くにない」(13歳・男)

年齢的に合わないと思うから

- ・「年齢的に、行っても何もない」(15歳・女)
- ・「もう高校生だから」(17歳・女)

行く必要がない・行く理由がない

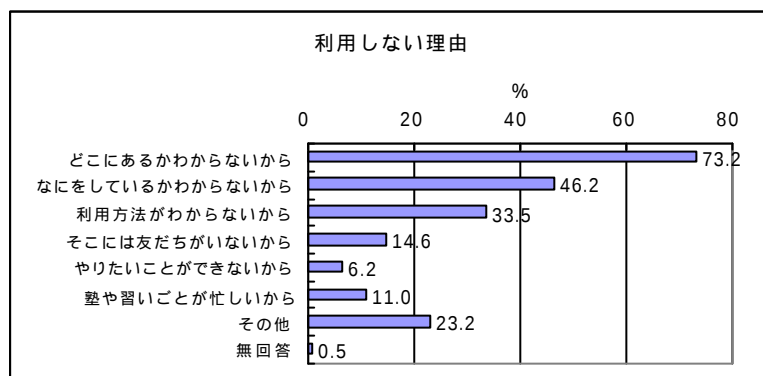
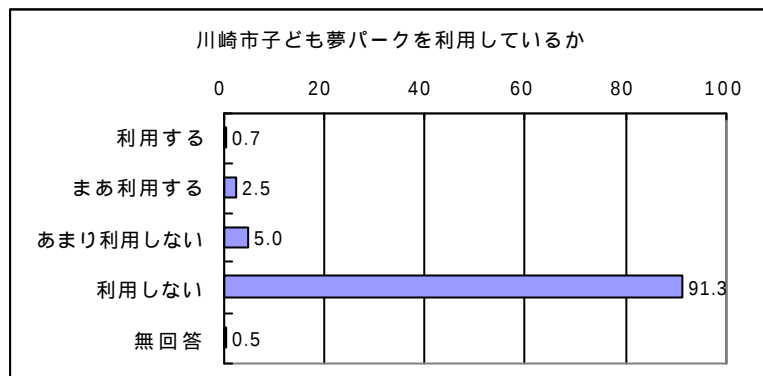
- ・「行く必要がないから」(14歳・女)(15歳・女)(16歳・男)
- ・「私には必要がないから」(14歳・男)(15歳・男)(15歳・女)(16歳・女)
- ・「行く理由がない」(16歳・女)

その他

- ・「そのものを知らない」(17歳・女)(17歳・男)
- ・「1回行ったことがあるけど不良のような子たちがきてこわい」(11歳・女)
- ・「外で遊びたいから」(12歳・女)
- ・「家で他にしたいことがあるから」(14歳・女)

ウ 子ども夢パークの利用度

(子ども【問 19】)



<子ども夢パークを利用しない理由 「その他」意見>

存在を知らない

- ・「そのものを知らない」(11歳・男)(12歳・男)(12歳・女)(13歳・女)(15歳・女)(16歳・男)(16歳・女)(17歳・男)(17歳・女)

時間がないから

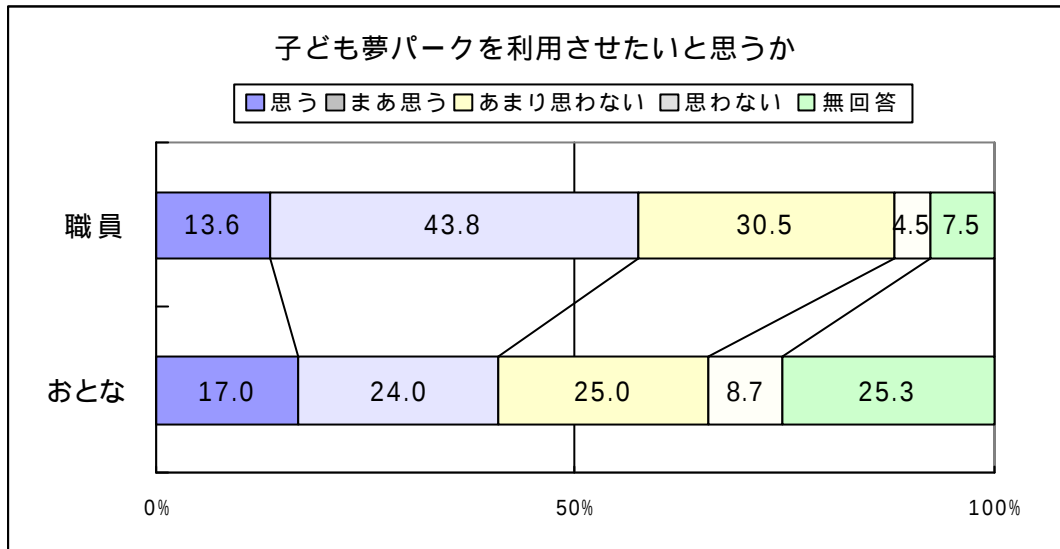
- ・「行く時間がないから」(14歳・女)(15歳・女)

その他

- ・「行く必要がないから」(16歳・男)
- ・「ガキじゃないしい」(16歳・女)
- ・「人が嫌いだから」(16歳・女)
- ・「たのしくないから」(14歳・女)
- ・「遠いから(子ども同士で行ける距離じゃない)」(12歳・女)

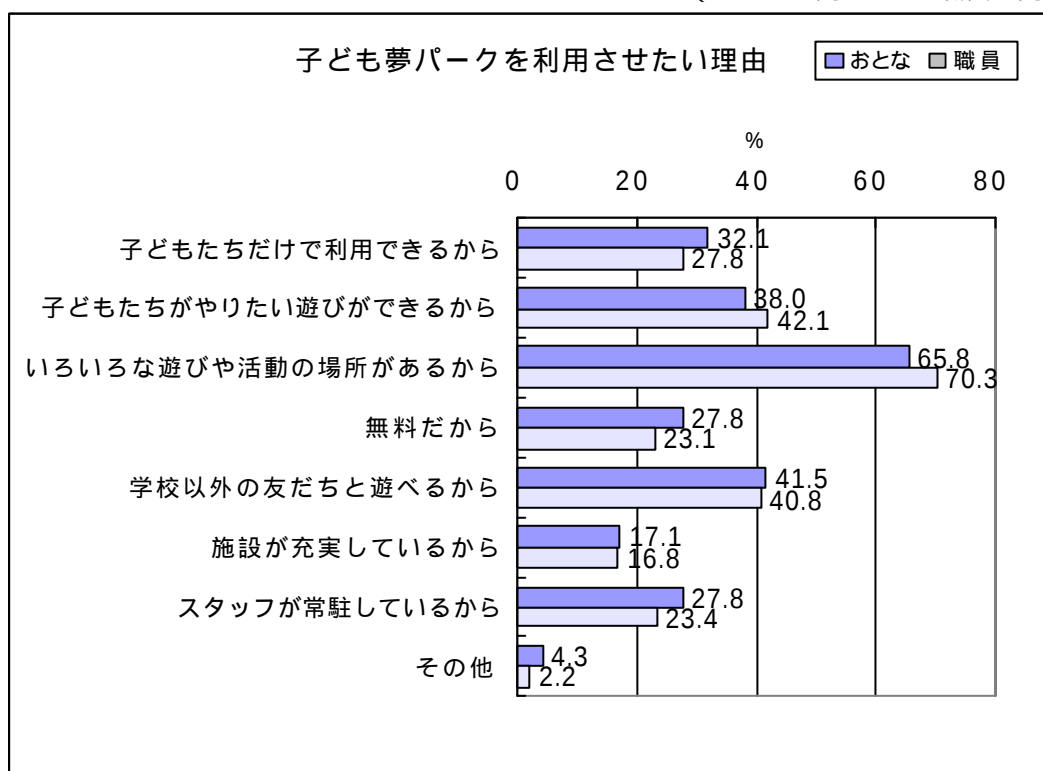
a 子ども夢パークを利用させたいと思うか

利用させたいと「思う」「まあ思う」と回答する割合は、おとな—41.0%、職員—57.4%であった。
(おとな【問 21】職員【問 23】)



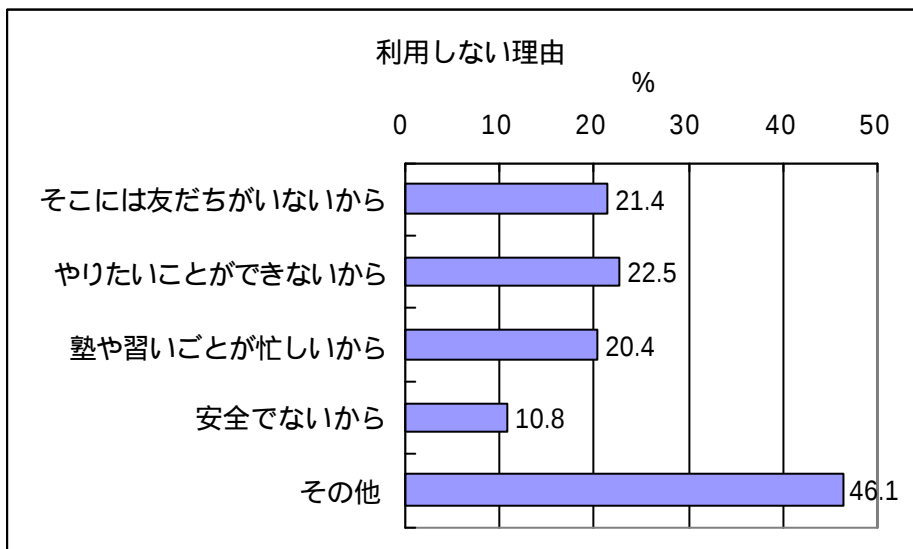
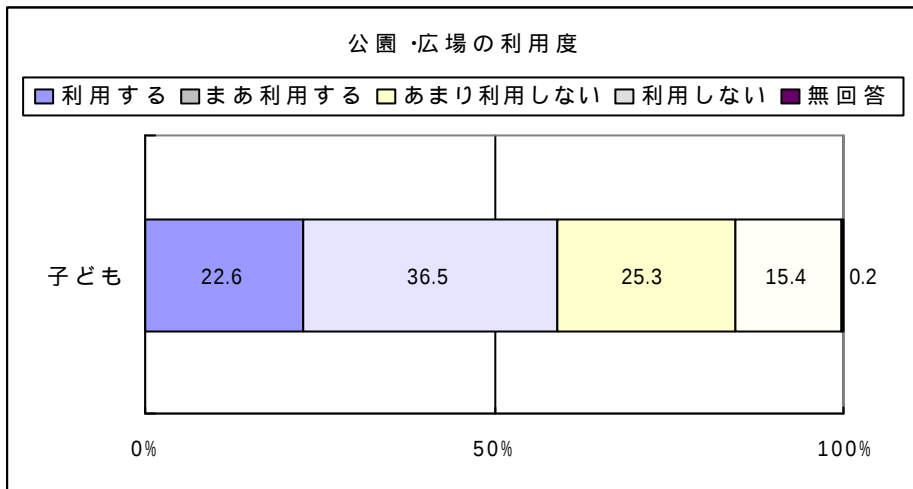
b その理由

(おとな【問 21 - 1】職員【問 23 - 1】)



エ 公園や広場などの利用度

(子ども【問 20・20 - 1】)



(7) 川崎市の支援について

情報提供を求める回答が、おとな・職員ともに多かった（おとな—37.8%、職員—36.4%）。

（おとな【問 22】職員【問 24】）

